HONDA
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山２－１－１

30KV3620
00X30-KV3-6200

客

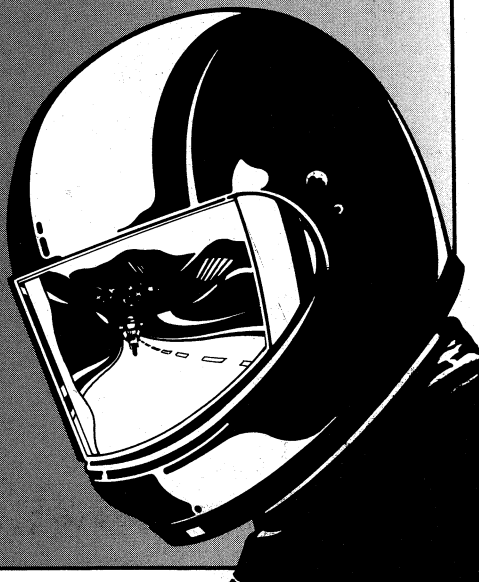
Ⓝ 508907 J

ヘルメットをかぶろう
●点検整備を充分にしよう●正しい服装で安全運転をしよう

取扱説明書をよく読んで
安全な運転をしましょう。

ホンダ

NSR250R
NSR250R SP



取扱説明書

ホンダNSR250R/NSR250R SPをお買いあげいただきありがとうございました。
この取扱説明書には、ホンダNSR250R/NSR250R SPの正しい取扱いかた、簡単な点検の方法、安全な運転の仕方などについて説明してあります。
より快適に、より安全にお乗りいただくために、この説明書をぜひお読みください。
又、整備手帳、セーフティポインツ（安全にお乗りいただくためのアドバイス）もぜひお読みください。

お車や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいたホンダ販売店または下記の **〈ご相談窓口〉** にお気軽にお申しつけください。
なお、各地区のホンダ二輪代理店でもお受けいたしております。

名　　称	電話番号	郵便番号	所　在　地
本田技研工業株式会社　お客様相談室	03 (423) 4211	107	東京都港区南青山2—1—1
本田技研工業株式会社 お客様相談室 北海道	011(781)2929	065	北海道札幌市東区本町２条10—2—29
本田技研工業株式会社 お客様相談室 仙　台	022(288)6561	983	宮城県仙台市若林区六丁の目西町1-10
本田技研工業株式会社 お客様相談室 名古屋	052(363)2929	454	愛知県名古屋市中川区五月通4—22
本田技研工業株式会社 お客様相談室 大　阪	0720(29)7755	572	大阪府寝屋川市池田中町2—12
本田技研工業株式会社 お客様相談室 九　州	092(962)2466	811-01	福岡県粕屋郡新宮町大字下府字塩出599

- 所在地，電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。
- ホンダ二輪代理店につきましては別冊“整備手帳”の住所一覧をご覧ください。

ご乗車の前に

お買いあげのホンダ販売店にて「取扱説明書」「整備手帳」「セーフティポインツ」を受け取り、下記の説明を受けてください。

★お車の正しい取扱いかた
★保証内容と保証期間
★車両受領書・保証書受領書記入・捺印
★点検・整備について

● 車を購入された当初は、いろいろ注意をはらって運転しますが、少し慣れてくるとこれらの注意を忘れがちになり、事故を起こす場合があります。
車に乗る時、いつも心がけなければならない重要な注意事項を書いた**「安全項目ラベル」**が車に貼ってありますので、これらの注意をいつもお守りください。

□ ヘルメットをかぶりましょう。
□ 法定速度を守りましょう。
□ マフラは熱くなります。人が触れない場所にとめましょう。
□ 定められた点検整備を励行しましょう。

● 車両の仕様、その他変更により、本書の絵が実車と異なる場合がありますのでご了承ください。
● この車は、運転者を含めて2人まで乗車できます。
● 本書は、NSR250Rを中心に説明してあります。

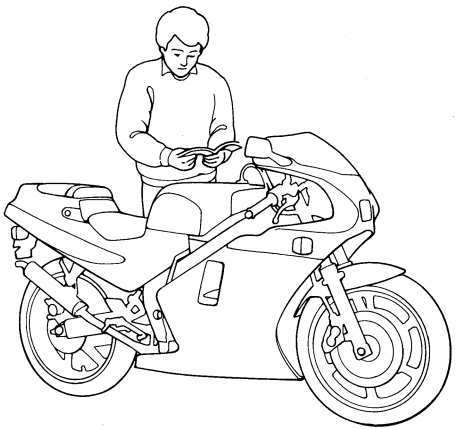
■目　　次

お車を安全にご使用いただくために …… 4
お車を大切にするために…… 9
　アルミ部品、マグネシウムホイール
　の取扱い……10
　フェアリングの取扱い……11
サイドスタンドを使用するとき
の駐車について……12
各部の名称……13
各部の説明と取扱い……16
　メータ類……16
　ランプ類……18
　メインスイッチ……20
　右ハンドルスイッチ……22
　左ハンドルスイッチ……22
　ハンドルロック……26
　シート……28
　ヘルメットホルダ……30
　書類入れ、携帯工具入れ……30
　フューエルコック……32
　ガソリンの補給……32
　フロントクッションの調整……34
　ブレーキレバーの距離調整……34
　ブレーキペダルの高さ調整……36
　サイドカバー……36
　ロアカウル
　（フロントフェンダ）……38
正しい運転操作……40
　エンジンのかけかた……40
　チェンジのしかた……44
　走りかた……46
　ブレーキの使いかた……48
点検、整備を安全に行うために……50
法定点検……53
運行前点検……54
　前日の異状箇所の点検……55
　ブレーキの点検……55

タイヤの点検……57
エンジンオイル量の点検……59
燃料の量の点検……59
冷却装置の点検……60
灯火装置、方向指示器の点検……61
後写鏡の写影の点検……61
自動車番号標(ナンバプレート)の
汚れ、損傷の点検……61
反射器の汚れ、損傷の点検……61
6ヵ月点検……62
かじ取りホークの点検……63
ブレーキの点検……64
タイヤの点検……68
バッテリ液量の点検……70
クラッチの点検……70
ドライブチェーンの点検……71
エンジンオイルの点検……72
トランスミッションオイルの点検……73
燃料漏れの点検……75
冷却水量の点検……75
灯火装置、方向指示器の作用の点検……76
シャシ各部の給油脂状態……76
簡単な整備……77
ブレーキ液の補給……78
クラッチレバーの遊びの調整……80
バッテリターミナルの清掃……81
ヒューズの交換……82
エンジンオイルの補給……84
冷却水の補給……86
ドライブチェーンの給油……87
サイドスタンドの点検……88
色物部品をご注文のとき……88
エンジンが始動しないとき……89
主要諸元……90
サービスデータ……92
配線図……巻末

■お車を安全にご使用いただくために

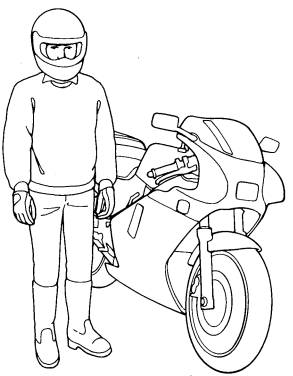
・取扱説明書をよく読んでください。



・運転者を守るヘルメットを必ず着用しましょう。手袋・眼鏡など着用するよう心がけてください。

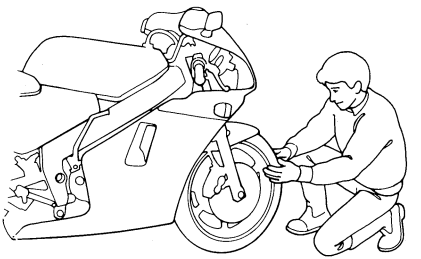
・運転を阻害するような服装はやめましょう。ブレーキレバーやクラッチレバーに引掛かったり、ドライブチェーンなどの回転部分に巻き込まれたりして危険です。

・ブレーキ操作やチェンジ操作に支障をきたすようなはきものはやめましょう。



・運行前点検を行ってください。

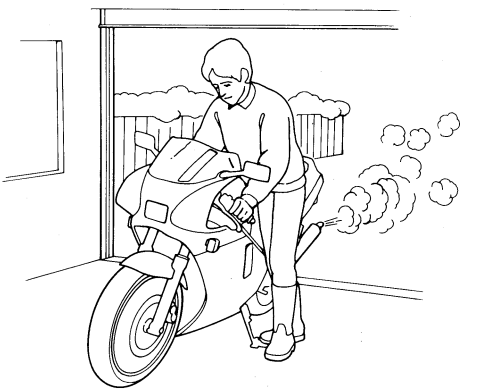
・車は常に清潔に手入れをし、定められた点検整備を必ず行いましょう。
運行前点検は、54ページ参照。



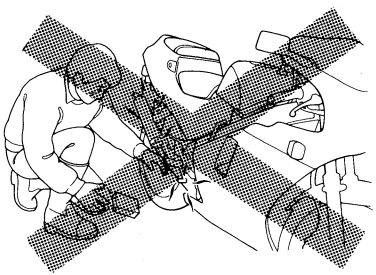
6か月点検をうけてください。

6か月点検は、62ページ参照。

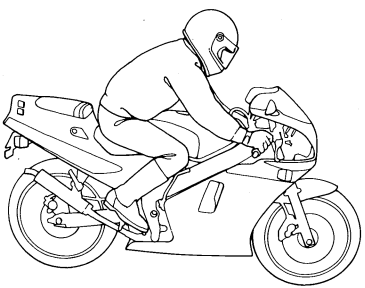
・排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。**エンジンは、風通しの良い場所でかけてください。**



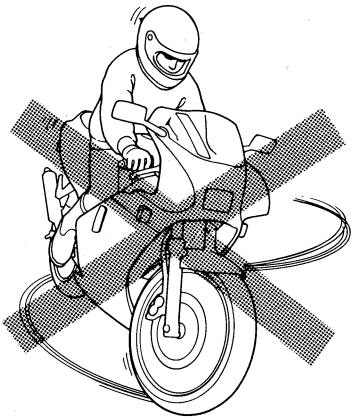
●エンジン回転中や停止直後は、**エンジン本体やマフラの一部が熱くなっています。**直接触れないでください。



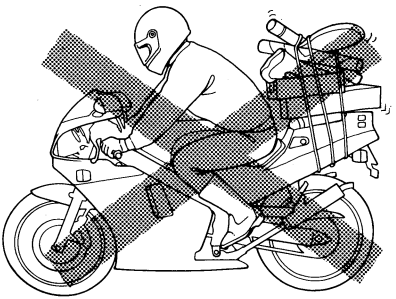
・**乗車するときは、ドライバは両手でハンドルを握り、両足をステップに置いてください。**うしろへ人が乗るときは、手で体をささえて両足は必ず後席用ステップにのせてください。



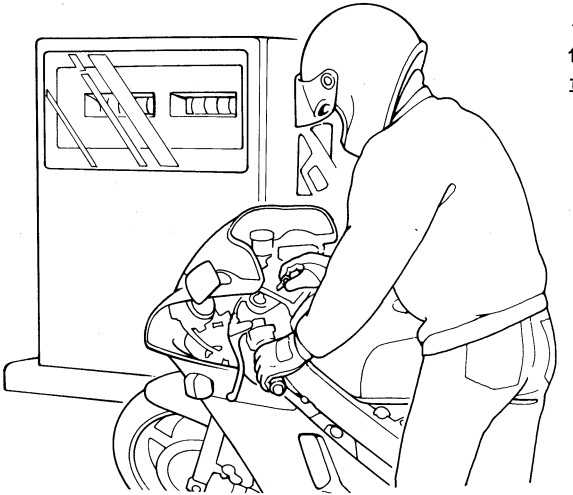
・**急激なハンドル操作や、片手運転は避けてください。**
これは、すべての二輪車の安全運転の原則です。



・荷物を積んだときは、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。積載するときは、**〝積み過ぎない〟、〝荷物を固定する〟**など十分注意し、安全に走行してください。



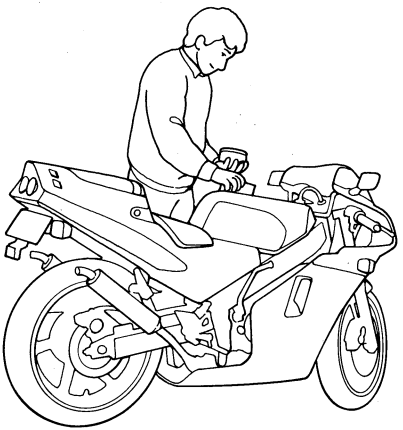
● **ガソリン補給時は火気厳禁です。**
エンジンは必ず止めてください。



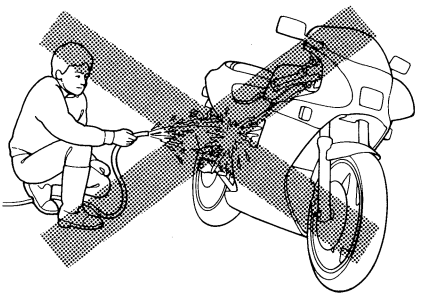
● **車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることになります。**
このような改造は、法律に触れることは勿論、他の迷惑行為となります。
車の改造は．保証が受けられません。

■お車を大切にするために

・車にワックスをかけるとき、塗装部をコンパウンド、ワックスなどで強く磨くと塗膜が薄くなったり色むらが生じますのでご注意ください。



・洗車時、マフラに水を入れないでください。マフラ内部に水がたまると始動不良やサビの発生などの原因になることがあります。



●アルミ部品、*マグネシウムホイールの取扱い

サイレンサ、ホイール、フレームはアルミニュウム合金を使用しています。但し、NSR250R SPのホイールは、マグネシウム合金製です。アルミ部品やマグネシウムホイールの特性を維持するため、必ず次のことをお守りください。

《お手入れ》

・アルミ部品やマグネシウムホイールは、塩分や汚れを嫌いますので、海水及び道路凍結防止剤などが付いたときには、早めに、スポンジに中性洗剤を含ませ、汚れを落した後、十分に水洗いをしてから乾いた布で水分を拭き取ってください。

・砂入り石鹸や硬いブラシは、アルミ部品やマグネシウムホイールを傷つけますので使用しないでください。

・アルミ部品やマグネシウムホイールのお手入れには〝ホンダ純正アルミホイールクリーナ〟をおすすめします。

《取扱い》

・アルミ部品やマグネシウムホイールは、傷がつきやすいのでかためのものでこすったり、すり当てたりしないでください。
特に、アルミサイレンサは傷がつきやすいので取扱いには十分注意してください。
サイレンサに浅い傷がついた時は、コンパウンドワックスで筋目方向にみがいてください。

・マグネシウムホイールの表面に傷がついた場合は、汚れを取除いてから、補修用塗料を塗って補修してください。
補修用塗料は、〝ホンダ純正タッチアップペイント「マグテックゴールドメタリック」〟をおすすめします。

注意

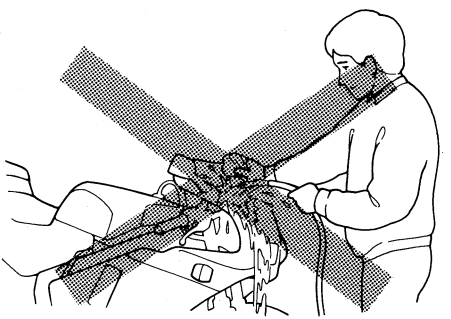
・エンジン停止直後は、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れないでください。

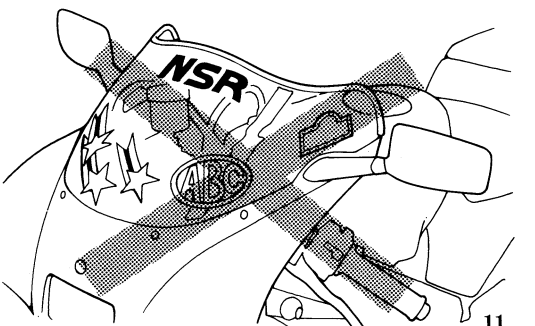
＊……NSR250R SPのみ

●フェアリングの取扱い

フェアリングの取扱いには次の注意事項をお守りください。

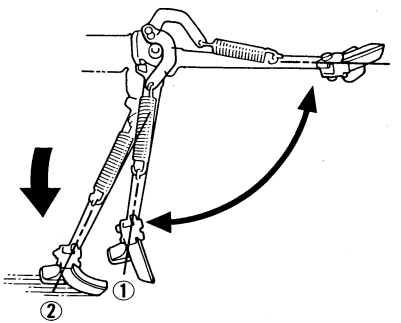
・ウインドスクリーン、フロントフェンダは傷がつきやすいので、清掃するときは多量の水を使って、やわらかい布かスポンジで汚れを落してください。
・汚れのひどい時は、中性洗剤を使用してください。
・フェアリングと車体との間に物を置かないでください。ハンドル操作に悪影響があります。
・ガソリン、ブレーキ液または洗浄液等の化学物質がメータ、ウインドスクリーン、フェアリング、サイドカバー等の樹脂部品にかかると、きれつなどが発生しますので、絶対にかからないようにしてください。
・ウインドスクリーンにシール類を貼るとスクリーンを汚損しますので、シール類を貼らないでください。
・ウインドスクリーンに貼付されているコーションラベルは、はがさないでください。





■サイドスタンドを使用するときの駐車について

このモデルのサイドスタンドは、２段モーション式です。スタンドを出すと、①の位置で止まり、車体を傾けると接地したラバーの作用で、②の位置(駐車位置)へ動き、車体を支えます。又、駐車状態から車体を起すと、サイドスタンドは、①の位置へ動きます。



・車は水平な場所にハンドルを左にきって駐車しましょう。

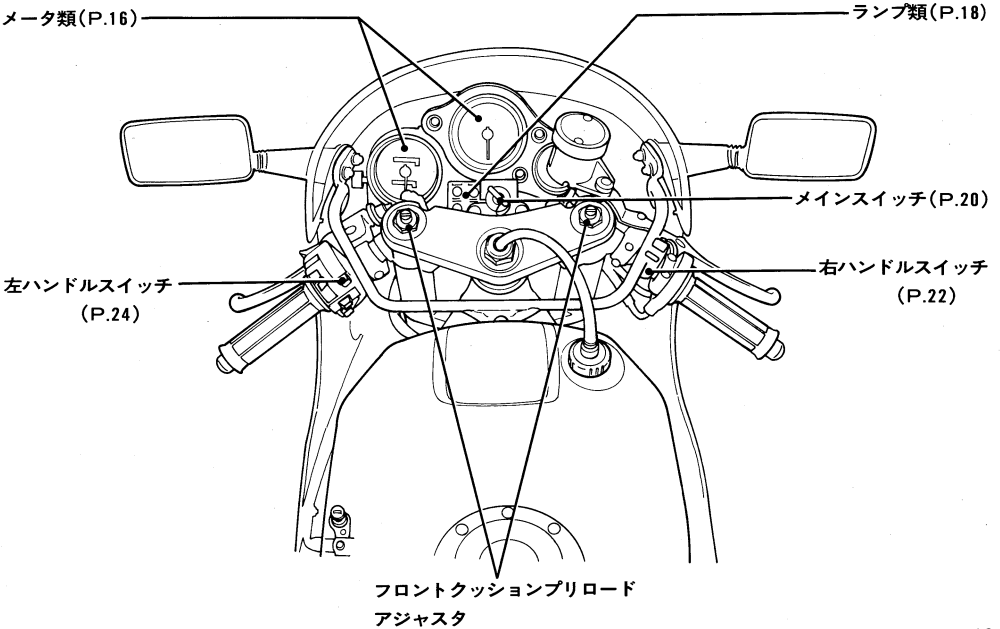
次のような状態では、車が不安定になり、転倒するおそれがあります。

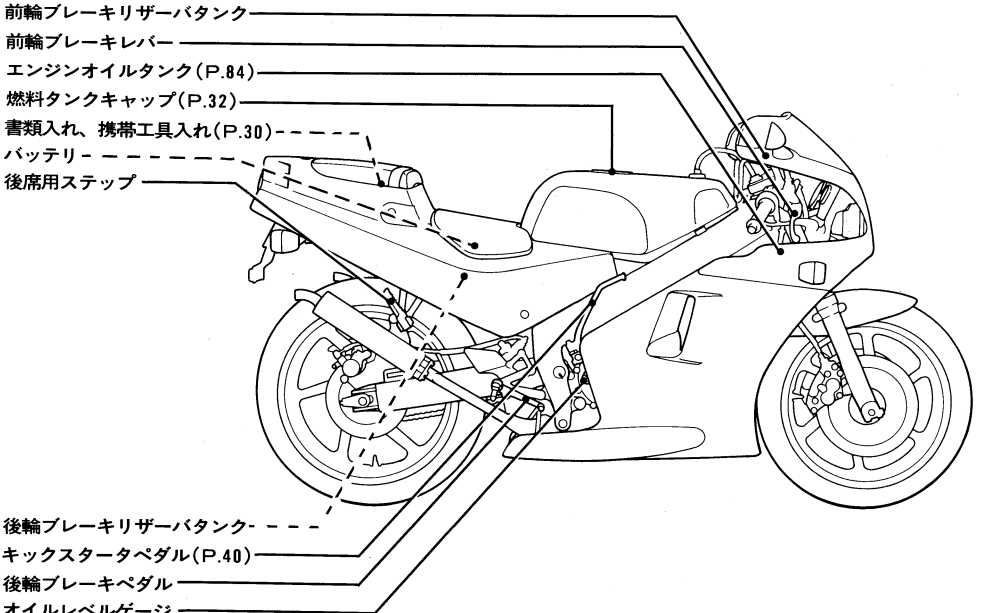
・ハンドルを右にきった状態での駐車。

・傾斜地、砂利を敷いた所、でこぼこな所、地面の軟かい所等での駐車。

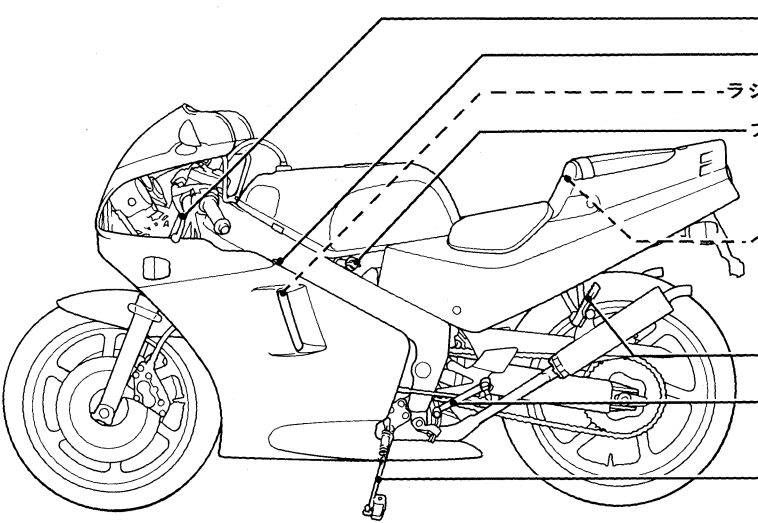
やむをえず上記のような不安定な場所に駐車せざるを得ないときは、車の転倒・動き出しのないよう、安全処置に十分留意してください。

■各部の名称


メータ類(P.16)
ランプ類(P.18)
メインスイッチ(P.20)
右ハンドルスイッチ
(P.22)
左ハンドルスイッチ
(P.24)
フロントクッションプリロード
アジャスタ



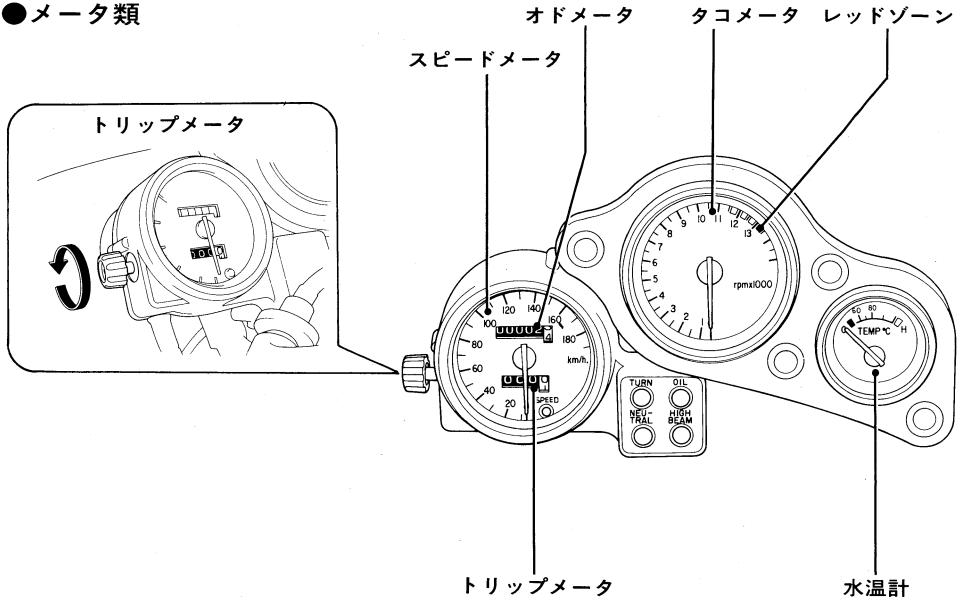
……は見えない部分を示します。



……は見えない部分を示します。

■各部の説明と取扱い

●メータ類



タコメータ
エンジンの回転数を示します。

注意
・タコメータのレッドゾーンに指針が入らないように注意し走行してください。
・空吹かし及び1速2速ギヤ位置での急加速はレッドゾーンに入りやすいので特に注意してください。
レッドゾーンとはエンジンの限界回転域を示したものでレッドゾーン以上で使用するとエンジン回転が不円滑になりエンジン寿命に悪影響を与えます。

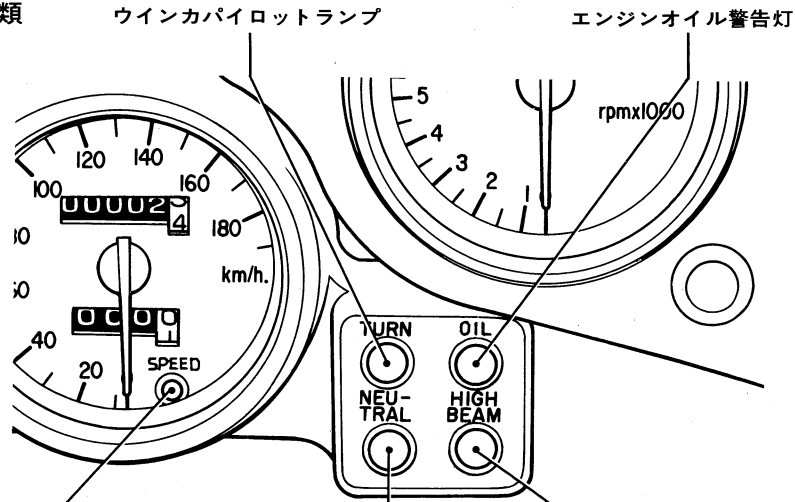
オドメータ
走行した総距離をkmの単位で示します。
白地に黒数字は100mの単位です。

トリップメータ
メータを〝0〟に戻した時点からの走行距離を示します。
戻すときは、トリップメータノブを矢印の方向に回します。

水温計
エンジン冷却水の温度を示します。
走行中の温度は目盛の赤マークより内側をさすのが正常です。万一針が赤マークを指していたら、リザーバタンク液量を点検してください。
リザーバタンク液量の点検は、60ページ参照。

注意
・高温下での長時間にわたるアイドリングにより、指針が赤マークを指す場合があります。この場合は、走行してエンジンを冷やすか、またはエンジンが冷えるまで停止してください。

●ランプ類


ウインカパイロットランプ
エンジンオイル警告灯
120
140
160
100
180
km/h.
40
20
SPEED
5
4
3
2
rpmx1000
TURN
OIL
NEU-
TRAL
HIGH
BEAM
速度警告灯
ニュートラル
パイロットランプ
ハイビーム
パイロットランプ

ハイビームパイロットランプ
ヘッドライトが点灯し、照射角が上向きのときに点灯します。

ニュートラルパイロットランプ
メインスイッチのキーが〝ON〟でチェンジがニュートラルのとき点灯します。

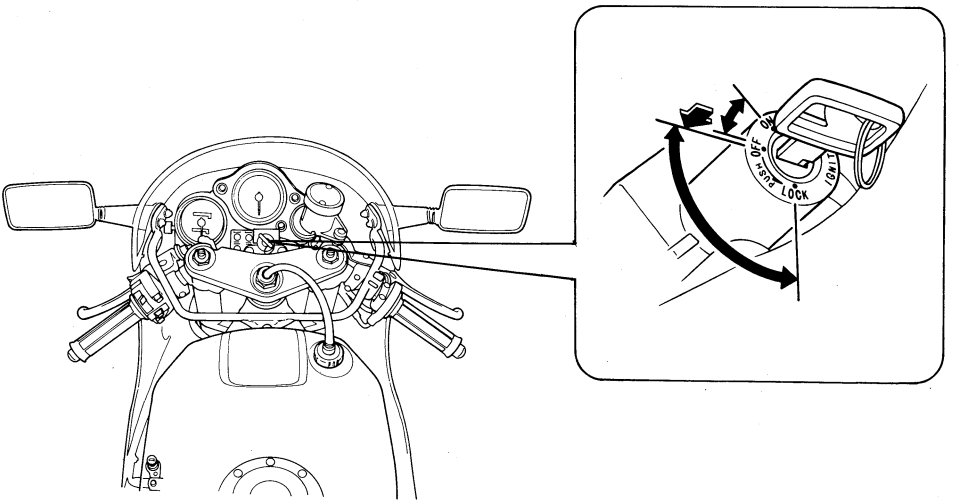
ウインカパイロットランプ
ウインカが作動しているとき、点滅します。

速度警告灯
スピードメータの指針が、80km/h付近になると点灯します。

エンジンオイル警告灯
メインスイッチのキーを〝ON〟にすると点灯し、数秒後に消えるのが正常です。オイルタンクの内のオイルが約0.25ℓになると点灯します。点灯したら推奨オイル**ホンダウルトラGP 2（分離給油用＝赤色）**を補給します。
エンジンオイルの補給は84ページ参照。

注意
- 数秒たってもオイル警告灯が消えない場合は、オイルが少なくなっています。推奨オイルを補給してください。
- 走行中にオイル警告灯が点灯した場合も早めに推奨オイルを補給してください。
- メインスイッチを〝ON〟にしてもオイル警告灯が点灯しない場合は、球切れかバッテリあがりまたは、回路の異常です。ホンダ販売店で、点検・整備を受けてください。

●メインスイッチ



メインスイッチ

メインスイッチは、電気回路の断続を行います。

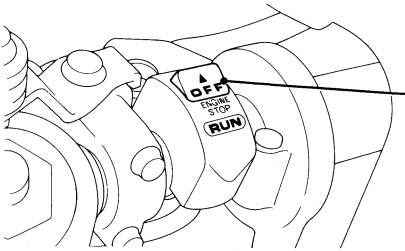
キーの位置	作用	キーの脱着
ON	始動・昼夜間走行 （ホーン、ウインカランプ、ストップランプ、ヘッドライト、ポジションランプなどが使える）	抜けない
OFF	停止 （電気回路は全部遮断する）	抜ける
LOCK	ハンドルのロックができる 電気回路も全部遮断する	抜ける

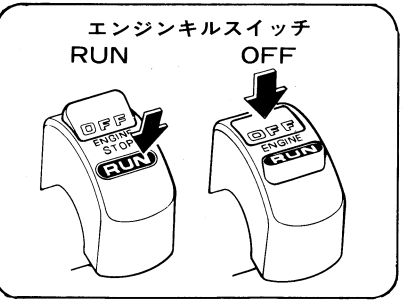
注意

・走行中はメインスイッチのキーを操作しないでください。
メインスイッチのキーを"OFF"や"LOCK"の位置にすると電気系統は作動しません。走行中にメインスイッチのキーを操作すると思わぬ事故につながる恐れがありますので必ず停車してから操作してください。

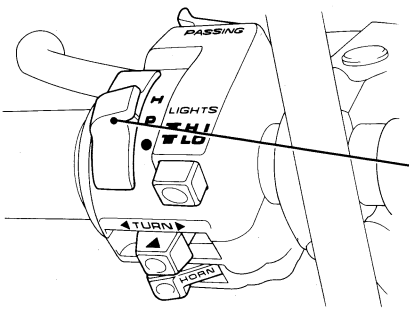
・車をはなれるときは、ハンドルロックをかけて必ずキーを抜いてお持ちください。

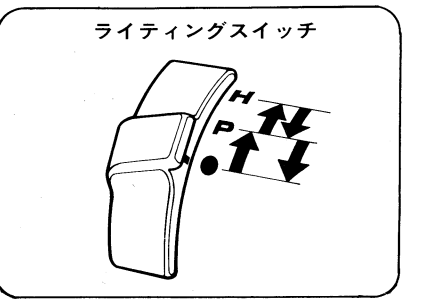
●右ハンドルスイッチ





●左ハンドルスイッチ





右ハンドルスイッチ
エンジンキルスイッチ

キルスイッチは、転倒またはスロットル系統に故障を生じたときなどの非常の場合に、手もとですぐエンジンを止めるために設けたものです。通常は〝RUN〟にしておいてください。
〝OFF〟では、エンジンはかかりません。

注意

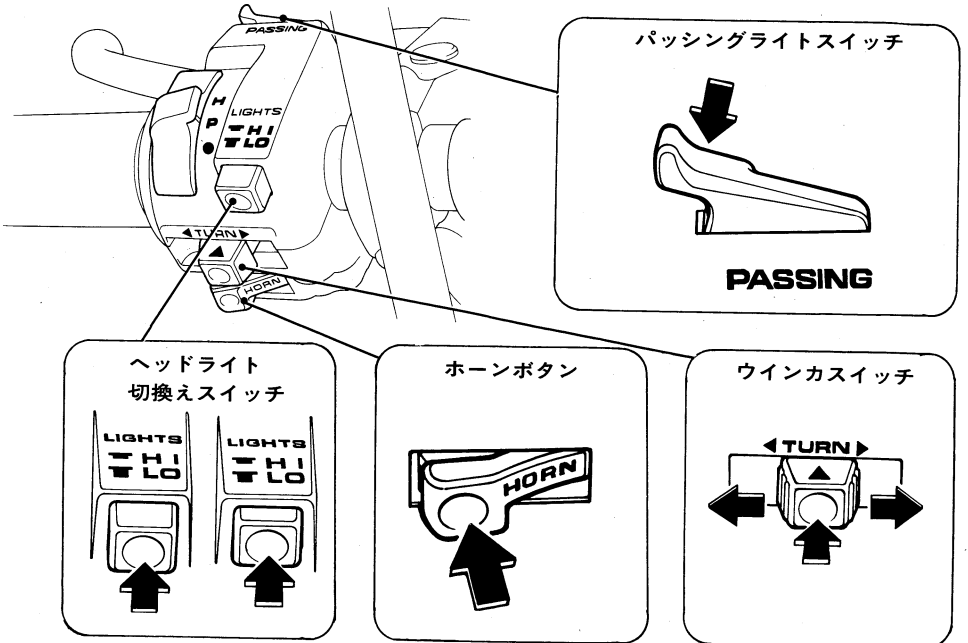
- **キルスイッチは非常の場合以外は使用しないでください。**走行中にキルスイッチをRUN→OFF→RUNにすると、エンジン回転が不円滑となり、走行不安定の原因となります。またエンジンにも悪影響をおよぼす恐れがあります。
- 非常時にキルスイッチでエンジンを停止した場合、忘れずにメインスイッチを〝OFF〟にしてください。〝ON〟のままにしておくと、バッテリあがりの原因となります。

左ハイドルスイッチ
ライティングスイッチ

メインスイッチのキーを〝ON〟にして、スイッチを操作するとヘッドライトなどが点灯します。

スイッチの位置	作用
H	ヘッドライト、ポジションランプ、メータランプ、テールランプ点灯
P	ポジションランプ、メータランプ、テールランプ点灯
●	消灯

- ポジションランプは、薄暮走行時に対向車への位置標示ができます。また夜、交差点で停止したときなど対向車に眩惑を与えることなく自車の存在を知らせることができます。


PASSING
LIGHTS
HI
LO
TURN
HORN
パッシングライトスイッチ
PASSING
ヘッドライト
切換えスイッチ
LIGHTS
HI
LO
LIGHTS
HI
LO
ホーンボタン
HORN
ウインカスイッチ
TURN

ヘッドライト切換えスイッチ

ヘッドライトの照射角を上下に切換えるスイッチです。

切換えはスイッチを押して行います。

〝HI〟：上向き

〝LO〟：下向き

ホーンボタン

メインスイッチのキーを〝ON〟にしてホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

パッシングライトスイッチ

追越しのときに自車の存在を知らせるためのものです。

《使いかた》

パッシングライトスイッチを押して行います。

注意

・ヘッドライト切換えスイッチが上向きのときは作動しません。

ウインカスイッチ

右左折するときや、進路変更する場合にはウインカで合図します。

《使いかた》

メインスイッチのキーを〝ON〟にしてスイッチを入れると、ウインカが作動します。

R……右折　　L……左折

・解除はウインカスイッチを押して行います。

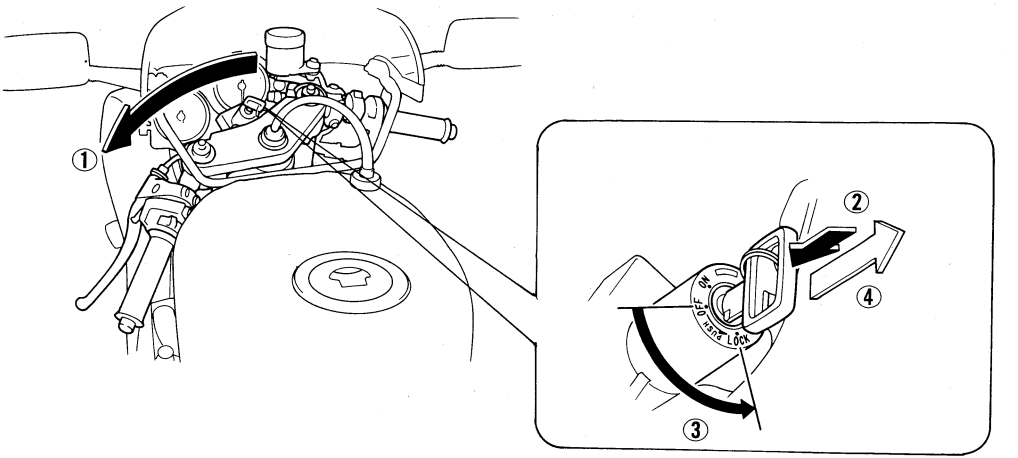
注意

・バルブ(電球)は、正規のワット数以外のものを使用しますと、ウインカが正常に作動しなくなります。必ず正規のワット数のものを使用してください。

・ウインカスイッチは自動的に解除しません。使用後は必ず解除してください。つけたままにしておくと他の方に迷惑となります。

●ハンドルロック

盗難予防のため，車を離れるときは必ずハンドルロックをかけましょう。



ハンドルロック

《かけかた》

1．ハンドルを左または右いっぱいに切ります。
2．メインスイッチにキーを差し込みます。
3．キーを押し込みながら、"LOCK"の位置までまわします。
4．キーを抜きます。

注意

・ハンドルが確実にロックされているか、ハンドルを軽く左右に動かして確認してください。
・交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。

《外しかた》

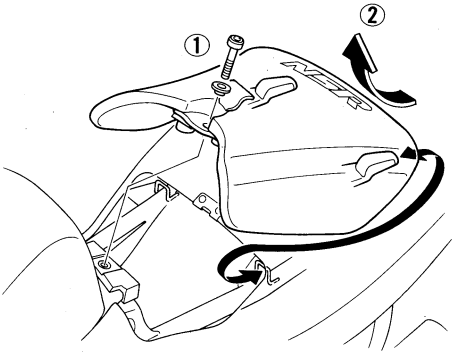
1．メインスイッチにキーを差し込みます。
2．キーを"OFF"または"ON"の位置までまわします。

注意

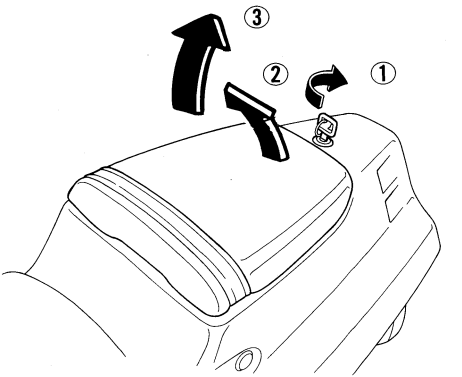
・走行前は、ハンドルを左右に切って切れ角が左右均等であるかを確認してください。

●シート

フロントシート



リヤシート



シート

フロントシート

《取外しかた》

1．シート前方のボルトを外します。
2．シートを前方へずらしながら持ち上げて取外します。

《取付けかた》

1．フレームのフックにシートの凸部を差し込みます。
2．シート前方をボルトでしっかりと締付けます。

注意
・シートの下に布等をはさまないでください。焼損することがあります。

リヤシート

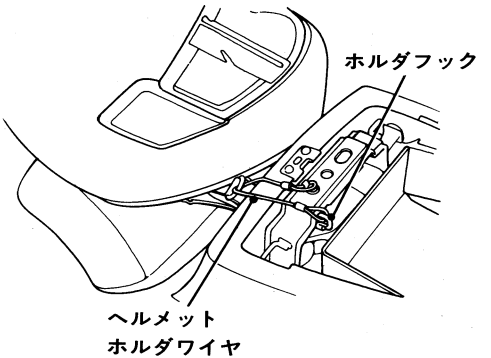
《取外しかた》

1．メインスイッチのキーを差し込み右にまわしながらシート後方を持ち上げてロックを解除します。
2．シートを後方へ持ち上げて取外します。

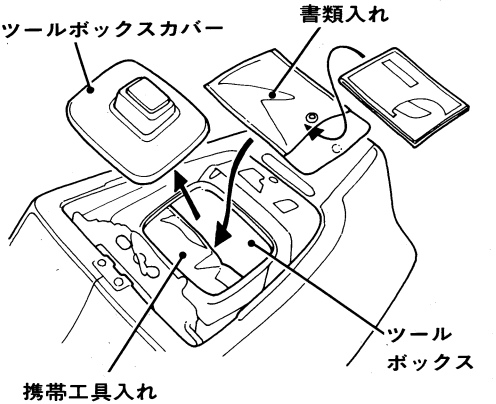
《取付けかた》

1．フレームのフックにシートの凸部を差し込みます。
2．シート後方を押し下げてロックします。
シートを軽く持ち上げてロックがかかったことを確認してください。
3．キーを抜きます。

●ヘルメットホルダ



●書類入れ、携帯工具入れ



ヘルメットホルダ

ヘルメットホルダを利用しますと、車を止めた時、ヘルメットを持ち歩く必要がありません。また、リヤシートによってロックができますから盗難を予防します。

《使いかた》

1．リヤシートを外します。
2．ヘルメットホルダワイヤをヘルメットの金具にとおします。
3．ヘルメットホルダフックにヘルメットホルダワイヤをかけます。
4．リヤシートを取付けます。

・ヘルメットホルダワイヤを使用しないときは、ホルダワイヤを小物入れに格納してください。

注意

・ヘルメットをヘルメットホルダにつけたまま走行しないでください。つけたまま走行すると車の部品に損傷を与えたり、後輪の回転を妨げることがあります。またヘルメットに損傷を与え保護機能を低下させます。

書類入れ、携帯工具入れ

リヤシートを外すと、ツールボックス内に書類入れ、携帯工具入れがあります。

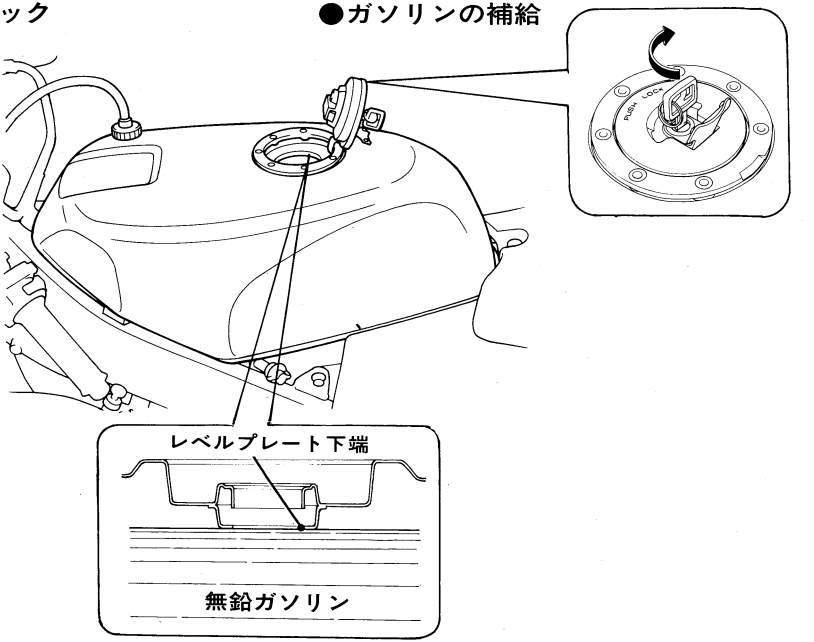
取扱説明書や整備手帳は書類入れに、携帯工具は携帯工具入れに確実に収納して、ここに保管します。

注意

・洗車時、シート下方から強く水をかけないでください。内部に水が入り書類等がぬれることがあります。

●フューエルコック

●ガソリンの補給



フューエルコック

▼マークに一致したフューエルコックの文字が状態を示します。

ＯＮ……キャブレータにガソリンが流れます。
乗車するときは、レバーをこの位置にします。

ＯＦＦ……ガソリンが、止まります。
乗車するとき以外は、レバーをこの位置にします。

ＲＥＳ……予備燃料です。(容量は約2.5ℓです)
〝ON〟で走行中燃料がなくなったらこの位置にします。
早目にガソリンを補給してください。
補給後は〝ON〟に戻して走行してください。戻し忘れると、走行しているうち予備燃料がなくなり走行できなくなります。

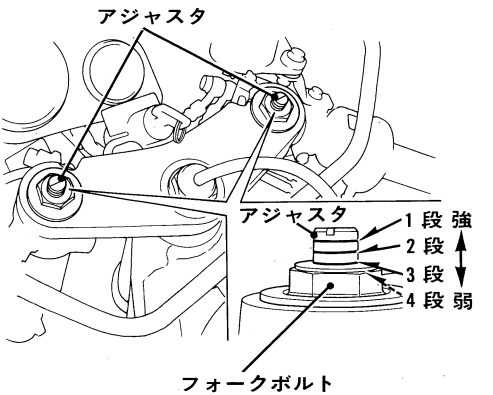
ガソリンの補給

・キーカバーを開けて、メインスイッチのキーを差し込み右に回すとタンクキャップが開けられます。
・ガソリンは注入口の下側にあるレベルプレート下端まで入れます。**(無鉛ガソリン)**
・閉じるときは、タンクキャップを手で確実に押してメインスイッチのキーを抜いてください。
タンクキャップがロックされないと、メインスイッチのキーは抜けません。

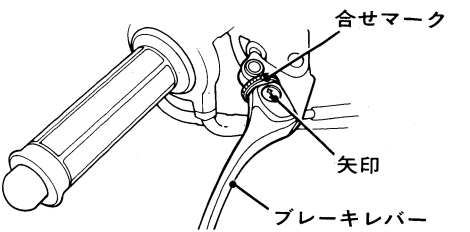
注意

・補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。
・ガソリンをレベルプレート下端以上に入れるとキャップのブリーザ孔からガソリンがにじみ出ることがあります。
・タンクキャップは、確実にしめてください。

●フロントクッションの調整



●ブレーキレバーの距離調整



フロントクッションの調整

フロントクッションの強さは、4段階に調整できます。

体重や路面の状態に応じて調整してください。

調整は、マイナス⊖ドライバでアジャスタを回し、アジャスタの目盛とフォークボルト上端面を合わせて行います。

アジャスタの上部から3段目の目盛が標準で、4段目が弱く、2～1段目と強くなります。

注意

・左右クッションの強さは、必ず同じにしてください。

ブレーキレバーの距離調整

ブレーキレバーにはハンドルグリップからの距離が微調整(約5段階)できるアジャスタが装備されています。

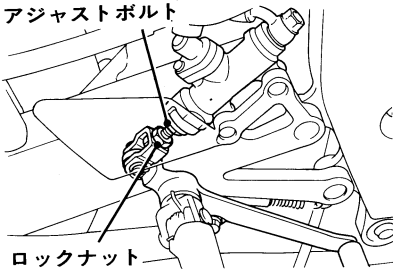
《調整のしかた》

アジャスタの合せマークがレバーの矢印に合う位置(手ごたえのある位置)まで回して調整します。

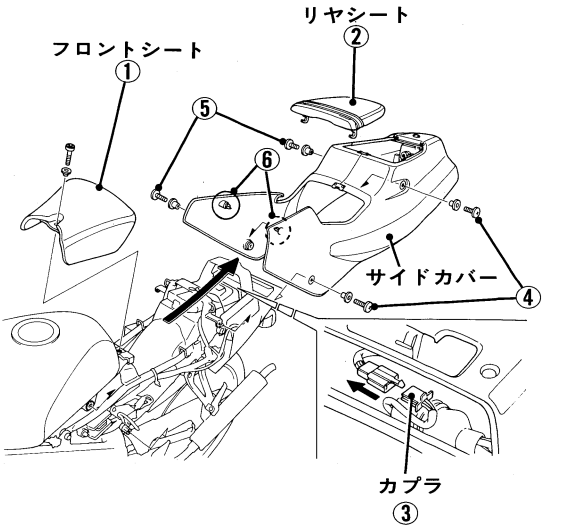
注意

・調整後は、前輪ブレーキレバーの遊びを点検してください。(55ページ参照)

●ブレーキペダルの高さ調整



●サイドカバー



ブレーキペダルの高さ調整

ブレーキペダルの高さは、若干の調整ができます。

調整はロックナットをゆるめアジャストボルトで行います。

> **注意**
> ・調整後、確実にロックナットを締付けてください。

サイドカバー

左右のサイドカバーは後部で継がっていますので取外すときは次の要領で行ってください。

《取外しかた》

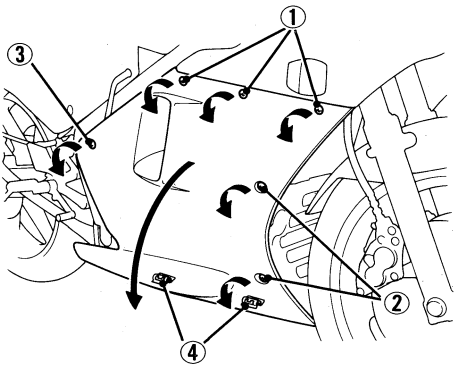
1．フロントシート①、リヤシート②を外します。（28ページ参照）
2．テール/ブレーキランプコードのカプラ③の接続を外します。
3．ビス④、⑤を外し、カバー前部の接続部⑥を外します。
4．左右のカバーの前部を少し開きながら、カバーを後方に引いて取外します。

《取付けかた》

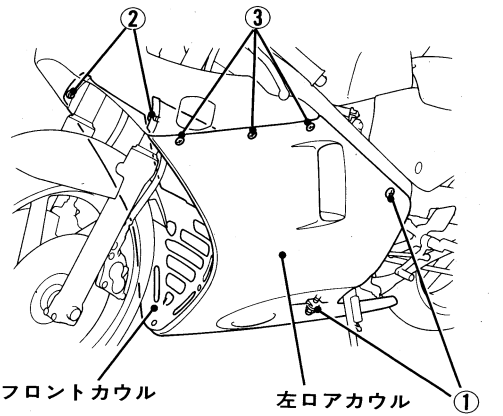
取付けは取外しの逆手順で行います。

●ロアカウル(フロントフェンダ)

右ロアカウル



左ロアカウル



ロアカウル(フロントフェンダ)

右ロアカウル

《取外しかた》

1．クリップビス①と②を左に回してゆるめます。
2．接続部③を引っぱって外し、ロアカウルを手前に引き、④のフックを外して、ロアカウルを取外します。

《取付けかた》

1．④のフックを確実にかけてから、接続部③をはめ込みます。
2．カウルの合せ目をきちんと調整して、①と②のクリップビスを右に回してロックします。

左ロアカウル

左ロアカウルは、フロントカウルと一体で取外し、取付けを行ってください。

《取外しかた》

1．右ロアカウルを取外します。
2．ビス①と②を外します。
3．ビス③を外し、ロアカウルを少し前方へ動かし、下側から手前に引いて取外します。

《取付けかた》

1．ビス③を仮付けします。
2．ビス①と②を仮付けし、カウルの合せ目をきちんと調整してから、ビス③を確実に締付けます。
ビス①と②を確実に締付けます。
3．右ロアカウルを取付けます。

注意

・ロアカウルとフロントカウルの取外し時又は取付け時は、カウルを傷付けたり、無理にねじ曲げたりしないように注意してください。

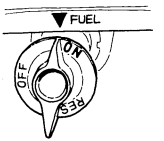
■正しい運転操作

●エンジンのかけかた

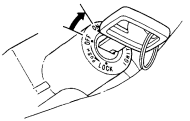
・エンジンが冷えているとき

①キルスイッチ

②フューエルコック

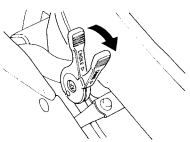


③メインスイッチ



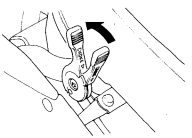
④ニュートラル
パイロットランプ

⑤チョークレバー



⑥キックスタータペダル

⑦チョークレバー



※この車のチョークレバーは、〝ON〟〝OFF〟のいずれかの位置だけでしか使用できませんので、ご注意ください。

1．キルスイッチが〝RUN〟になっていることを確認します。
2．フューエルコックレバーが〝ON〟になっていることを確認します。
3．メインスイッチを〝ON〟にします。
4．チェンジをニュートラルにします。(ニュートラルランプで確認してください。)
5．チョークレバーをいっぱいに引きます。(ONの状態)
6．スロットルグリップを回さずに、力強くキックをします。
・チョークを使用した時は必ずスロットルグリップを戻して始動すること。
7．エンジンがかかったら**チョークレバーが〝ON〟の状態で暖機運転をつづけ、**回転が下がってきたらチョークレバーを完全に戻してください。
(〝OFF〟の状態)
8．キックスターターペダル及び、サイドスタンドが**確実に格納してあることを確認してから**スタートしてください。

・エンジンがかからないときは、89ページ記載の要領で確認してください。

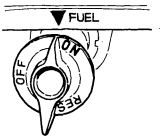
注意

・排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、せまい場所での始動は避けてください。
・チェンジが入った状態で、クラッチを切らないでキックすると、飛び出しや転倒することがあります。必ずニュートラルを確認するか又はクラッチを切ってから始動してください。
・無用の空ふかしはしないでください。ガソリンの無駄使いになるばかりでなく、エンジンに悪影響を与えます。
・交差点などで停車しているとき、スナッピングはしないでください。周囲の迷惑になるばかりでなく、プラグかぶりがおこりエンジンがストップすることがあります。

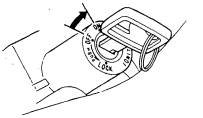
・エンジンが暖まっているとき

①キルスイッチ

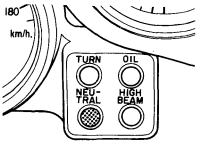
②フューエルコック



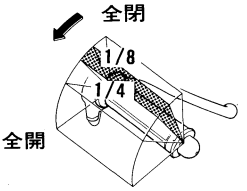
③メインスイッチ



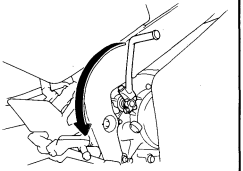
④ニュートラル パイロットランプ



⑤スロットルグリップ



⑥キックスタータペダル



※この車のチョー クレバーは、〝ON〟〝OFF〟のいずれかの位置 だけでしか使用できませんので、ご注意くだ さい。

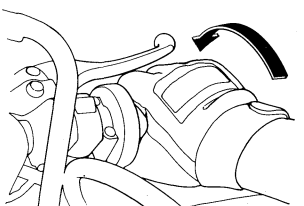
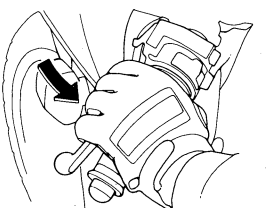
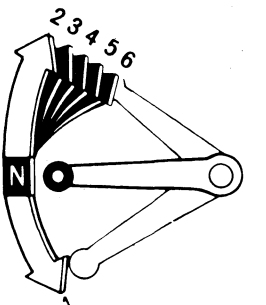
1．キルスイッチ が〝RUN〟になっていることを確認します 。
2．フューエルコ ックレバーが〝ON〟になっていることを確認します。
3．メインスイッ チを〝ON〟にします。
4．チェンジをニ ュートラルにします。(ニュートラルランプで確認してください。)
5．スロットルグ リップを**1/8から1/4ほど回し、**力強くキック をします。通常の場合これでエンジンがかかります。
6．キックスター タペダル及び、サイドスタンドが**確実に格納してあることを確認してから**スタートし てください。

・エンジンがかからないときは、89ページ記載の要領で確認し てください。

注意

・排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、せまい場所での始動は避けてください。
・チェンジが入った状態で、クラッチを切らないでキックすると、飛び出しや転倒することがあります。必ずニュートラルを確認するか又はクラッチを切ってから始動してください。
・無用の空ふかしはしないでください。ガソリンの無駄使いになるばかりでなく、エンジンに悪影響を与えます。
・交差点などで停車しているとき、スナッピングはしないでください。周囲の迷惑になるばかりでなく、プラグかぶりがおこりエンジンがストップすることがあります。

●チェンジのしかた

①スロットルグリップ	②クラッチレバー	③チェンジペダル
		

チェンジのしかた

チェンジは、図のような6段リターン式です。

・変速は、スロットルグリップを一旦戻してクラッチレバーを完全に握ってから行います。

・軽くつま先で行い、ペダルにコツンと足ごたえのあるまで確実に操作してください。無理をすると、チェンジ機構を痛める原因となります。

●走りかた

・走行前に、サイドスタンドは完全に納まっているか確認してください。

・サイドスタンドの動きがスムーズであることを確認してください。(88ページ参照)

・車のスピードに応じてギヤを切換えることが必要です。
右表は、その速度範囲を示したものです。

・不必要な急加減速をつつしんで走ることが、燃料の節約と車の寿命をのばします。

注意
・発進は、できるだけ静かに行いましょう。
・走行中に異音や異常を感じたときは、ただちにホンダ販売店で調べましょう。
・法定速度を守って走りましょう。

《慣らし運転》

最初の1,000km走行するまでは、エンジン回転を6,000回転以下で慣らし走行してください。慣らし運転を行うと、車の寿命をのばします。

	速度範囲
1速	0～55km/h
2速	20～85km/h
3速	25～110km/h
4速	40～130km/h
5速	45～150km/h
6速	60km/h以上

《シフトダウンのしかた》

追い越しするときなど、強力な加速が必要なときは、シフトダウンをすると加速力が得られます。

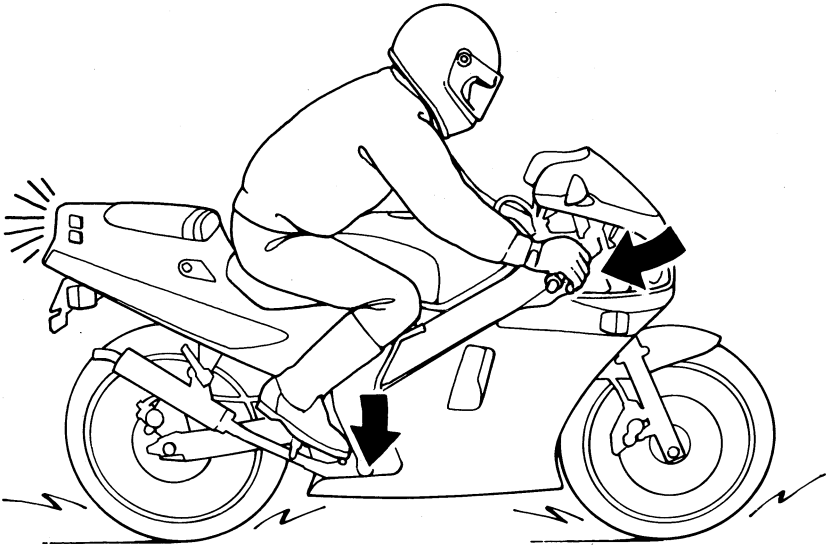
あまり高い速度で行うと、エンジンの回転が上がりすぎて、エンジン、ミッションに悪影響を与えます。

右表の速度内で行ってください。

	シフトダウン可能限界速度
6速→5速	150km/h以下
5速→4速	130km/h以下
4速→3速	110km/h以下
3速→2速	80km/h以下
2速→1速	50km/h以下

●ブレーキの使いかた

・ブレーキは、**前後輪を同時に**使いましょう。



・不必要な急ブレーキは避けましょう。

注意

・前輪ブレーキまたは後輪ブレーキのどちらか一方のブレーキのみ使うと、車が横すべりして転倒するおそれがあります。
・雨天走行や路面が濡れている場合、急激なブレーキをかけるとタイヤがスリップして転倒の原因になることがあります。スピードを落として、余裕をもったブレーキ操作をしてください。
・連続的なブレーキ操作は、ブレーキ部の温度上昇の原因となり、ブレーキの効きが悪くなる恐れがありますので避けてください。

《エンジンブレーキ》

スロットルグリップをもどすとエンジンブレーキがききますが、さらに強力なブレーキを必要とするときは5速、4速……とシフトダウンを行います。

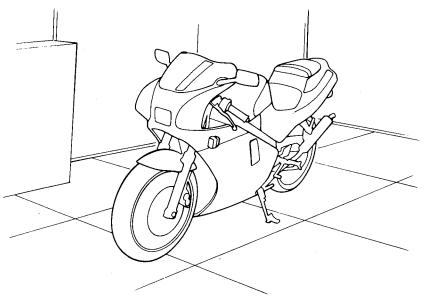
長い下り坂、急な下り坂などでは、断続的なブレーキ操作とエンジンブレーキを併用してください。

注意

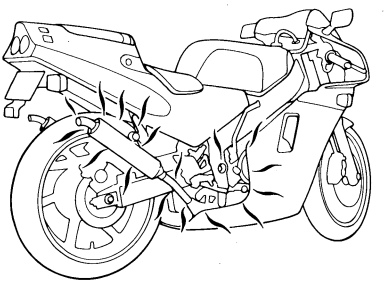
・急激なシフトダウンは、尻振りなどの原因となります。47ページの表にしたがって行ってください。

■点検、整備を安全に行うために

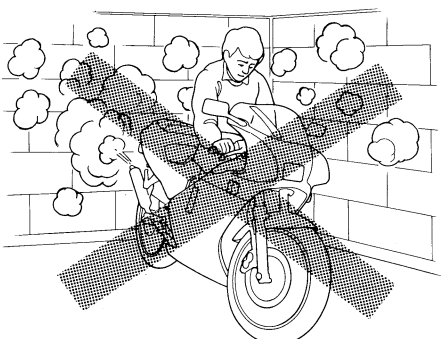
・場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。



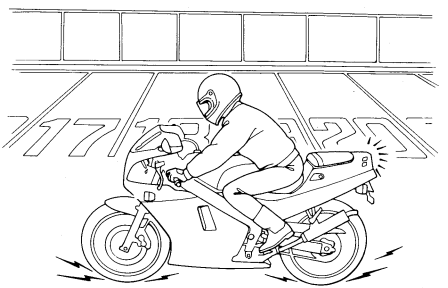
・エンジン停止直後の点検、整備は、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。



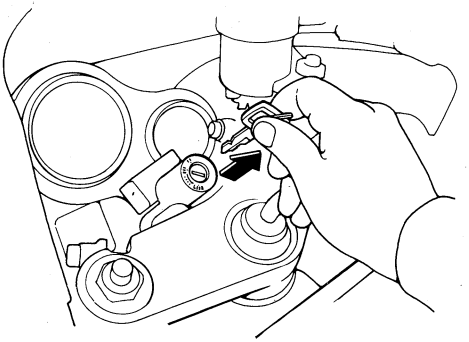
・排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。



・走行して点検する必要があるときは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意して行ってください。



・整備はエンジンを停止しキーを抜いた状態で行ってください。



注意

クッションユニットは、高圧の窒素ガスが封入されておりますので下記事項を必ず守ってください。

・火中に入れたり、穴をあけたり、分解したりしないでください。
爆発やオイルの吹き出しなどが起り危険です。

・廃却する際は、ホンダ販売店へお申しつけください。

純正部品

あなたのお車に最適なホンダ純正部品をご使用ください。
純正部品は、厳しい検査を実施し、ホンダ車に適合するように作られています。
ホンダ販売店でお求めになれます。

純正部品には、つぎのマークがついています。

■法定点検

お車をご使用のかたには、法律（道路運送車両法）で、ご使用者の安全と車の事故を未然に防ぐため、１日１回の**運行前点検**と**６・12か月ごとの定期点検**を行うことが義務づけられています。

点検項目の詳細は、別冊**「整備手帳」**をご覧ください。

点検整備数値は、92ページのサービスデータをご参照ください。

異常が認められた場合は、ご使用のかたご自身またはホンダ販売店で必ず整備をしてください。

■運行前点検

運行前点検は、車を使用する人が、１日１回運転する前に実施するよう法令により義務づけられています。

●前日の異状箇所
●ブレーキペダルの踏みしろ、きき具合
●ブレーキリザーバタンクの液量
●タイヤの空気圧、亀裂、損傷、異状な摩耗、金属片、石などの異物
※タイヤの溝の深さ
※エンジンオイル量
※燃料の量
※冷却水量
※冷却装置の水漏れ
●灯火装置、方向指示器
●後写鏡の写影
●自動車登録番号標の汚れ、損傷
●反射器の汚れ、損傷

※印は、高速走行が可能な道路を、走行する予定がない場合には行わなくてもよい項目です。

注意事項

点検するときは、安全に十分注意してください。

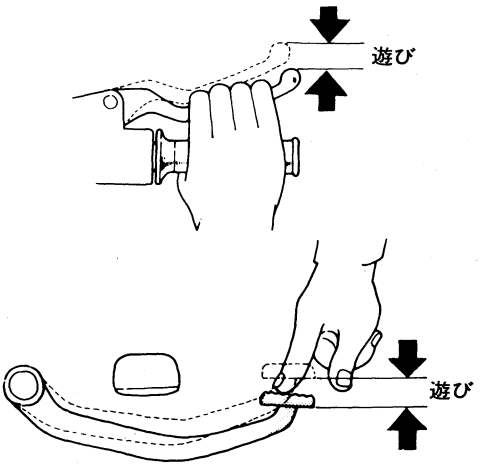
・場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。
・エンジン停止直後の点検は、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。
・排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。

●前日の異状箇所の点検

運行に支障がないかを点検します。

●ブレーキの点検

《ブレーキペダルの踏みしろ、きき具合》



●ブレーキレバーの遊び

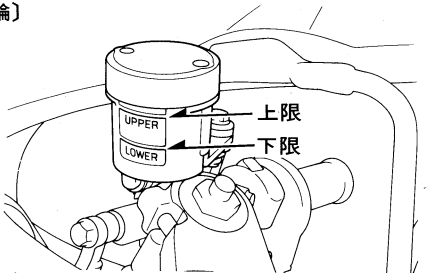
抵抗を感じるまで、手でブレーキレバーを引き、レバー先端の遊びが適当であるかを点検します。ブレーキレバーを強く引いたとき、やわらかくふわふわする感じの場合は異常です。

●ブレーキペダルの遊び

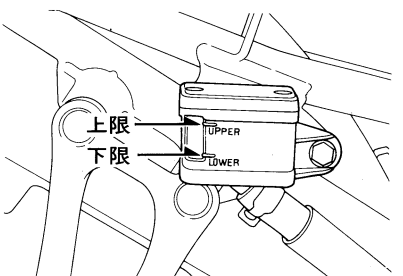
抵抗を感じるまで、手でブレーキペダルを押し、ペダル先端の遊びが適当であるかを点検します。ブレーキペダルを強く押したとき、やわらかくふわふわする感じの場合は異常です。

《ブレーキリザーバタンク液量の点検》

〔前輪〕



〔後輪〕



〔前輪〕

平坦地でスタンドを立て、ハンドルを動かし、ブレーキ液面がレベルラインに平行な状態で点検します。

液面が上限と下限の間にあるかを点検してください。

ブレーキ液の補給は78ページ参照。

〔後輪〕

平坦地で車体を垂直にします。

シート、サイドカバーを外します。(28、36ページ参照)

ブレーキ液面がレベルラインに平行な状態で点検します。

液面が上限と下限の間にあるかを点検してください。

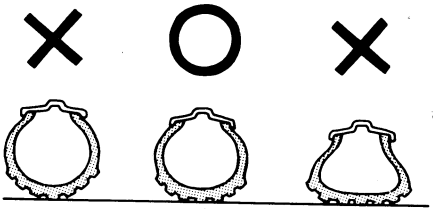
ブレーキ液の補給は78ページ参照。

万一、液の減り方が著しい場合は、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。ブレーキホース、パイプの液漏れの点検をしてください。

ブレーキ液漏れの点検は65ページ参照。

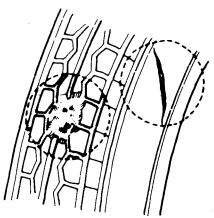
●タイヤの点検

《空気圧の点検》



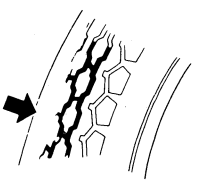
タイヤの接地部のたわみ状態を見て、空気圧が適当であるかを点検します。
タイヤ接地部のたわみ状態が異常な場合は、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。

《亀裂・損傷》



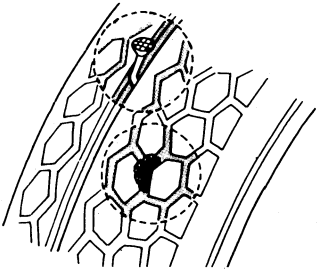
タイヤの接地面や側面に、著しい亀裂や損傷がないかを点検します。

《異状な摩耗》



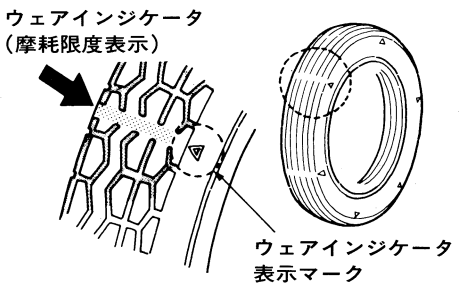
タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

《金属片、石などの異物》



タイヤの接地面や側面に、釘や石などがささったり、かみ込んだりしていないかを点検します。

《溝の深さ》

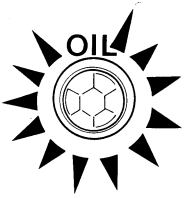


溝の深さに不足がないかをウェアインジケータ(摩耗限度表示)により点検します。
ウェアインジケータがあらわれたらタイヤを交換してください

注意
・空気圧が正常でなかったり、タイヤに亀裂損傷や異常摩耗があるとハンドルをとられたり、パンクの原因になります。

●エンジンオイル量の点検

オイル警告灯



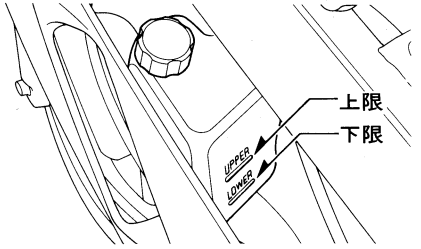
・オイルが少なくなると、オイル警告灯が点灯します。
・オイル警告灯が点灯したら、タンクにオイルを補給してください。
エンジンオイルの補給は、84ページ参照。

●燃料の量の点検

ガソリンが目的地まで走行するのに十分な量であるかを点検します。

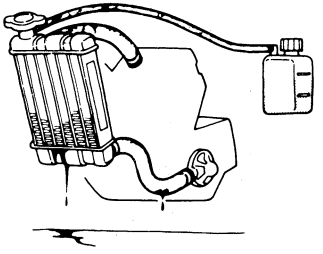
●冷却装置の点検

《冷却水量》



・平坦地で車体を垂直にします。
・ラジエータ液面がリザーバタンクの上限(UPEER)と下限(LOWER)の間にあるかを点検します。液面が下限に近かったら、上限まで指定ラジエータ液を補給してください。
ラジエータ液の補給は、86ページ参照。

《冷却装置の水漏れ》



・ラジエータ、ラジエータホースなどから水漏れがないかを点検します。
また車をとめておいた地面に、水が漏れたあとがないかを点検してください。

●灯火装置、方向指示器の点検
《点滅具合、汚れ、損傷》

ヘッドライト、ポジションランプ、テールライト/ストップランプ、ウインカランプのスイッチを作動させて、点灯または点滅するかを点検します。
このとき、レンズに汚れや損傷がないかを点検します。

●後写鏡の写影の点検

シートに座って、正しい運転姿勢をとったとき、後方がバックミラーに正しく写るかを確認し、点検します。

●自動車番号標(ナンバプレート)の汚れ、損傷の点検

ナンバプレートに汚れや損傷がないかを点検します。また、確実に取付いているか手でさわって確認し、点検します。

●反射器の汚れ、損傷の点検

反射器に汚れ、損傷がないかを点検します。

■ 6か月点検

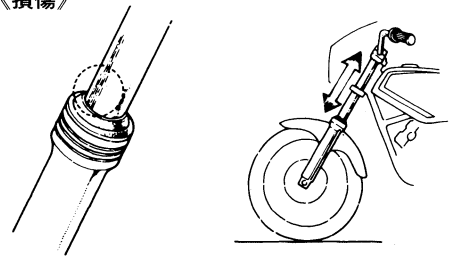
定期点検は、車を使用する人が定期的に行う点検で、法令によって定められています。
自家用2輪自動車については、6か月点検と12か月点検の2種類があります。

・6か月点検項目には、Ⓐ とⒷの項目があります。別冊「整備手帳」の点検整備方式の一覧表を参照してください。ここではⒶの項目とメーカ推奨項目を選んで点検要領を説明してあります。
　Ⓐ……点検を行うに当たって、車の構造、装置に関する基礎的な技術知識を有する人であれば、自らでも実施可能なもの。
　Ⓑ……点検を行うに当たって、専門的な技術知識を必要とするもの、専門的な機械、工具や測定器具を必要とするもの、装置または部品の分解、取外しを伴うもの。
・点検結果は、所定の記録用紙に記録する必要があります。ご自身でできない項目については、ホンダ販売店で点検を受け記録してください。
・点検結果の記録用紙は、別添整備手帳に綴込まれています。尚、記録は1か年保存してください。
・メーカ推奨項目の点検結果は、点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

注意事項
点検するときは安全に十分注意してください。
・場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。
・エンジン停止直後の点検は、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。
・排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。
・走行して点検する必要があるときは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意して行ってください。

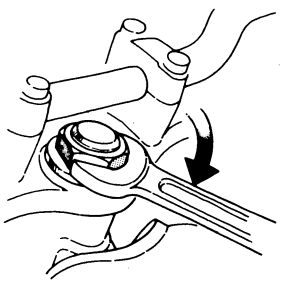
●かじ取りホークの点検

《損傷》



フロントホーク(かじ取りホーク)に損傷がないか目視により点検します。
また、ハンドルを上下に動かし、フロントホークの曲りによる異音がないかを点検します。

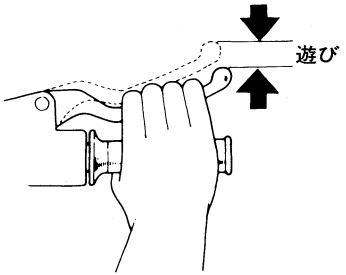
《ホークスピンドルの取付け状態》



ステアリングステム(ホークスピンドル)の締付けナット(ステムナット)にゆるみがないかをスパナなどの工具により点検します。

●ブレーキの点検

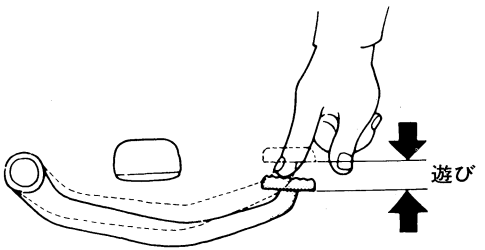
《ブレーキペダルの遊び》



●前輪ブレーキレバーの遊び

抵抗を感じるまで、手でブレーキレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。

ブレーキレバーを強く引いたとき、やわらかくふわふわする感じの場合は異常です。

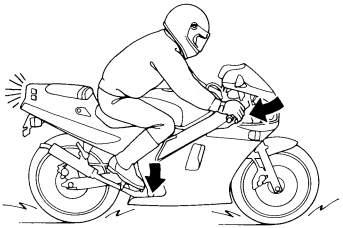


●後輪ブレーキペダルの遊び

抵抗を感じるまで、手でブレーキペダルを押し、ペダル先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。

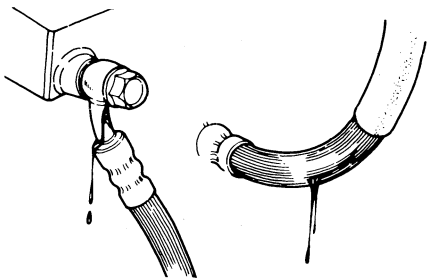
ブレーキペダルを強く押したとき、やわらかくふわふわする感じの場合は異常です。

《ブレーキのきき具合》



乾燥した路面で、低速走行して前輪ブレーキ、後輪ブレーキを別々に作動させ、きき具合が十分であるかを点検します。

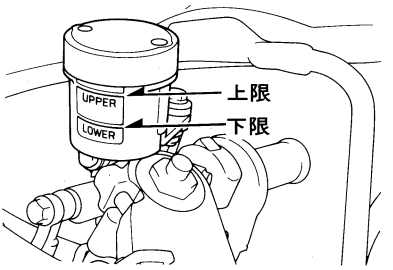
《ブレーキホース、パイプの漏れ、損傷、取付け状態》



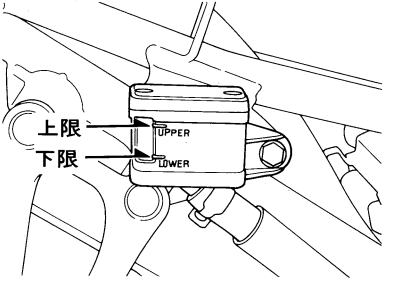
液漏れ、損傷がないかを目視などにより点検し、接続部、クランプに緩みがないかをスパナなどの工具で点検します。
また、ハンドルを左右に切ったときや、走行中の振動でホース、パイプの保護部以外が、他の部品と接触する恐れがないかを点検します。

《ブレーキリザーバタンク液量の点検》

〔前輪〕



〔後輪〕



〔前輪〕

平坦地でスタンドを立て、ハンドルを動かし、ブレーキ液面がレベルラインに平行な状態で点検します。

液面が上限と下限の間にあるかを点検してください。

ブレーキ液の補給は、78ページ参照。

〔後輪〕

平坦地で車体を垂直にします。

右サイドカバーにある点検窓からのぞいて、ブレーキ液面がレベルラインに平行な状態で点検します。

液面が上限と下限の間にあるかを点検してください。

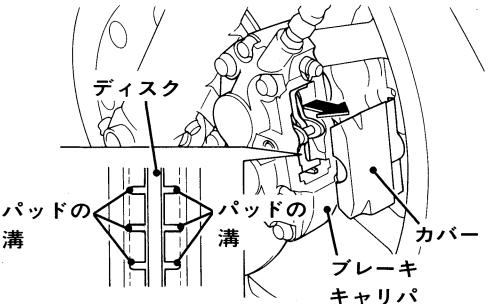
ブレーキ液の補給は78ページ参照。

万一、液の減り方が著しい場合は、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。ブレーキホース、パイプの液漏れの点検をしてください。

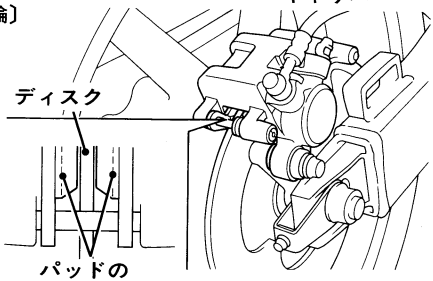
ブレーキ液漏れの点検は65ページ参照。

《ブレーキパッドの点検》（メーカ推奨項目）

〔前輪〕



〔後輪〕



ブレーキを作動させ、ブレーキパッドの摩耗を点検します。

〔前輪〕

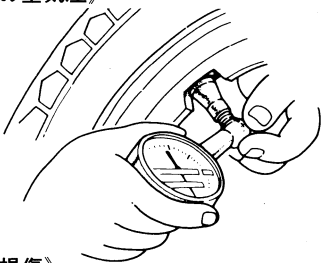
ブレーキキャリパのカバーを外し、パッドの溝がなくなったら、パッドの摩耗限界です。

〔後輪〕

ブレーキキャリパの後側からのぞいて、パッドの摩耗限界線がブレーキディスクの側面に達したら、パッドの摩耗限界です。

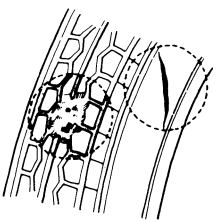
●タイヤの点検

《タイヤの空気圧》



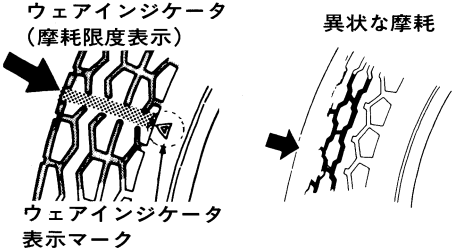
タイヤの空気圧をタイヤゲージで点検します。空気圧は、タイヤが冷えているときに測定してください。

《亀裂と損傷》



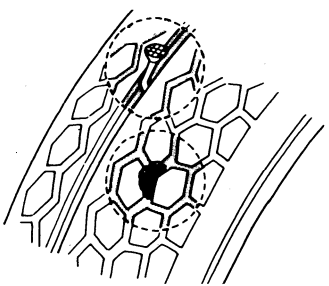
タイヤの接地部や側面に亀裂や損傷がないかを目視により点検します。

《溝の深さと異状な摩耗》



・溝の深さに不足がないかをウェアインジケータ(摩耗限度表示)により点検します。
・ウェアインジケータがあらわれたらタイヤを交換してください。
・タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

《金属片、石などの異物》



タイヤの接地面や側面に、釘や石などがささったり、かみ込んだりしていないかを点検します。

注意
・空気圧が正常でなかったり、タイヤに亀裂損傷や異常摩耗があるとハンドルをとられたり、パンクの原因になります。

●バッテリ液量の点検

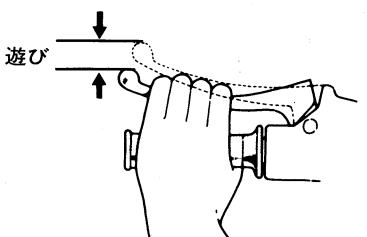
この車には、密閉式のメインテナンスフリーバッテリが装備されております。バッテリ液の点検、補給は不要です。異常が認められた場合は、ホンダ販売店で整備してください。

注意

- 密閉式バッテリですので、液口キャップは絶対に取外さないでください。
- 長期間使用しない場合は、自己放電と電気もれを少なくするため、車からバッテリを降ろし完全補充電して風通しのよい暗い場所に保存してください。もし車に積んだまま保存する場合は、㊀側ターミナルを外してください。

●クラッチの点検

《レバーの遊び》



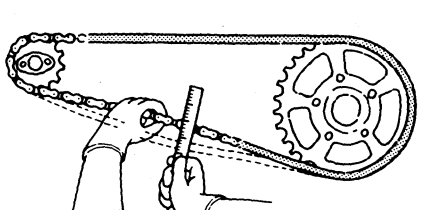
抵抗を感じるまで、手でクラッチレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。

《クラッチの作用》

- アイドリング状態で、クラッチレバーをいっぱいに引いたとき異音がしないか、異常に重くないかを点検します。
- クラッチレバーを徐々に離して発進したとき滑りがなく、接続が滑らかであるかを点検します。

●ドライブチェーンの点検

《ドライブチェーンのたるみ》



・スタンドを立て、前後スプロケットの中央を手で上下に動かし、チェーンのたるみが規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。

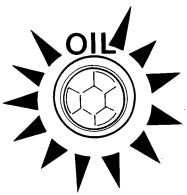
・車体を前後に動かしてチェーンが滑らかに回転するかを点検します。チェーンの回転が滑らかでない場合や、異音が出る場合は異常です。

チェーンの給油状態を点検します。給油を必要とする場合は、87ページを参照してください。

●エンジンオイルの点検

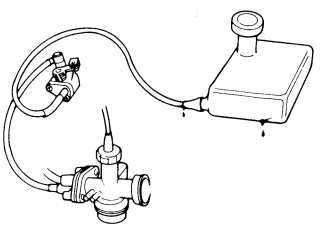
《オイルの量》

オイル警告灯



オイルが少なくなると、オイル警告灯が点灯します。
オイル警告灯が点灯したら、タンクにオイルを補給してください。
エンジンオイルの補給は、84ページ参照。

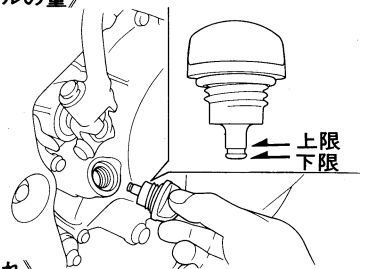
《油漏れ》



オイルタンクおよびオイルホースなどから、オイルが漏れていないかを点検します。

●トランスミッションオイルの点検

《オイルの量》



・平坦地でエンジンを２～３分間アイドリング回転させ、エンジン停止２～３分後に車体を垂直にしトランスミッションオイル量がオイルレベルゲージの上限と下限の間にあるかを点検します。
・オイルレベルゲージをねじ込まず差し込んで点検してください。
・オイル量が下限に近かったら、上限まで補給してください。
・補給後、オイルレベルゲージを確実に取付けます。

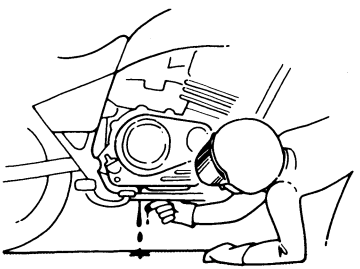
《推奨オイル》

〝ホンダ純正オイル ウルトラ-U(４サイクル二輪車用)〟またはAPI SE級の10W—30エンジンオイル。

《推奨交換時期》

２年ごと

《油漏れ》

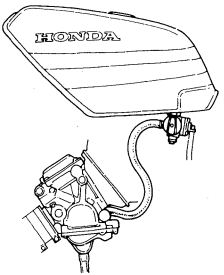


クランクケースなどから、オイルが漏れていないかを点検します。

注意

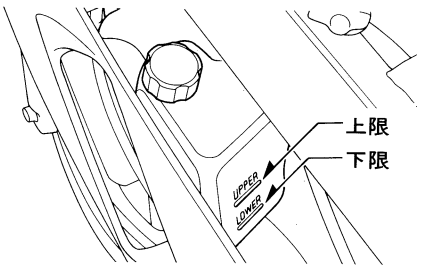
・補給するときは、オイル注入口からゴミなどが入らないようにしてください。
オイルをこぼしたときは、完全にふきとってください。
・オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。
・銘柄やグレードの違うオイルを混用したり、低品質オイルを使用しないでください。変質して故障の原因になることがあります。

●燃料漏れの点検



フューエルコック、ガソリンタンク、ホース、パイプ、キャブレータなどからガソリン漏れがないかを点検します。

●冷却水量の点検

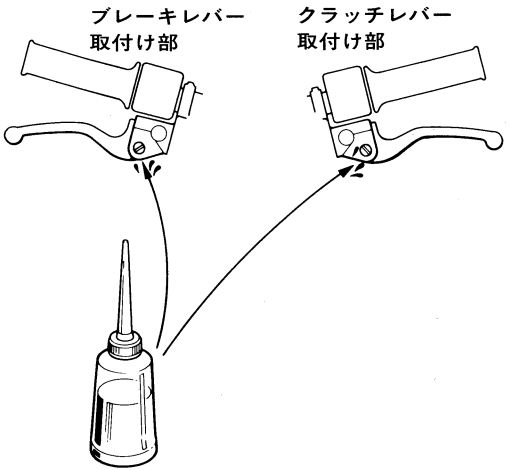


・平坦地で車体を垂直にします。
・ラジエータ液面がリザーバタンクの上限(UPPER)と下限(LOWER)の間にあるかを点検します。
液面が下限に近かったら、上限まで指定ラジエータ液を補給してください。
冷却水の補給は86ページ参照。

●灯火装置、方向指示器の作用の点検

・ヘッドライト、ポジションランプ、ストップランプおよびテールランプのスイッチを作動させ点灯具合を点検します。
また、ヘッドライトの明るさや、照射方向に異常がないかを壁面にあてるなどして点検します。
・左右のウインカを作動させ、毎分60～120回の一定の周期で点滅するかを点検します。
・ヘッドライト、テールランプ、ストップランプ、ウインカのレンズに変色、損傷がないか、また、取付けにゆるみがないかを点検します。

●シャシ各部の給油脂状態



シャシ各部の給油脂状態が十分であるかを目視などにより点検します。

■簡単な整備

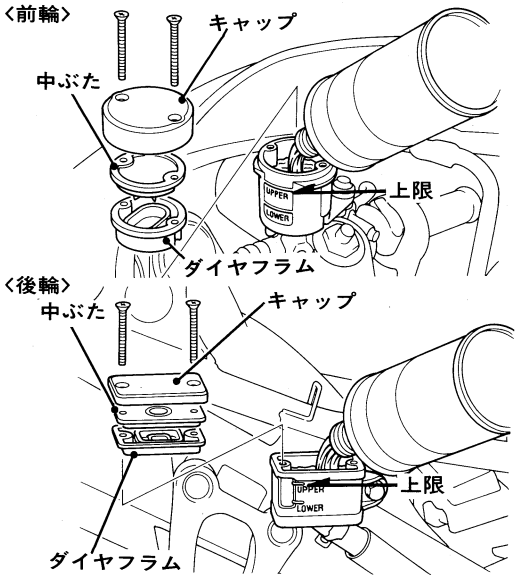
ここでは、点検の結果、清掃、調整、交換などの整備が必要になった場合、通常行われることが多いものの代表例について、その実施方法を説明してあります。

注意事項

整備するときは安全に十分注意してください。

- 場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- 適切な工具を使用してください。
- 整備はエンジンを停止しキーを抜いた状態で行ってください。
- エンジン停止直後の整備は、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。

●ブレーキ液の補給



〈前輪〉

1．リザーバタンクの外周のゴミ、汚れをきれいに拭き取り、異物がタンク内に落ちないようにします。
2．ビスを外し、キャップ、中ぶた、ダイヤフラムを取外します。
3．リザーバタンクの上限レベルラインまで指定ブレーキ液を補給します。
4．ダイヤフラムの方向性とかみ込みに注意して、ビスでキャップを確実に締付けます。

・ブレーキ液の減り具合が著しいときは、ブレーキ系統の異常です。

《指定液》

ホンダブレーキフルードDOT 4

〈後輪〉

1．サイドカバーを外します。(36ページ参照)
2．リザーバタンクの外周のゴミ、汚れをきれいに拭き取り、異物がタンク内に落ちないようにします。
3．ビスを外し、キャップ、中ぶた、ダイヤフラムを取外します。

4．リザーバタンク上限レベルラインまで指定ブレーキ液を補給します。
5．ダイヤフラムの方向性とかみ込みに注意して、ビスでキャップを確実に取付けます。
6．サイドカバーを取付けます。(36ページ参照)
・ブレーキの減り具合が著しいときは、ブレーキ系統の異常です。

《指定液》

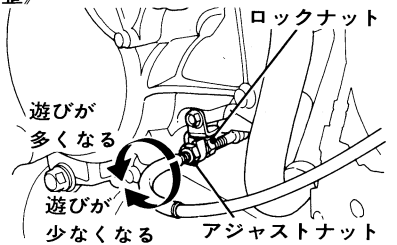
ホンダブレーキフルードDOT 4

注意

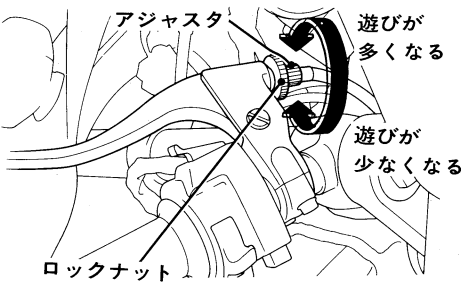
・ブレーキ液を補給するときは、リザーバタンク内にゴミや水などが混入しないよう十分注意してください。
・化学変化を防止するため，銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。
・ブレーキ液は塗装面をいためるので、部品類に付着させないでください。
付着させたら、すぐに拭き取ってください。
・上限レベルラインを越えて、ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液がにじみ出ることがあります。

●クラッチレバーの遊びの調整

《主調整》



《微調整》



クラッチケーブルのクラッチレバー側またはクラッチ側のアジャスタにより遊びを調整します。

《主調整》

1．右ロアカウルを取外します。(38ページ参照)
2．クラッチ側のロックナットをゆるめ、アジャストナットで行います。
3．調整後、ロックナットを締付けます。
4．右ロアカウルを取付けます。(38ページ参照)

《微調整》

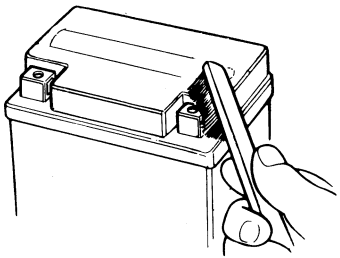
1．クラッチレバー側のロックナットをゆるめアジャスタを回して行います。
2．調整後、ロックナットを締付けます。

調整後、クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで確認します。

注意

・調整後、エンジンをかけチェンジ操作がスムーズであるか、エンストまたは飛び出し等がないか確認してください。

●バッテリターミナル部の清掃



ターミナル部に汚れや腐食がある場合は、バッテリを取外して清掃します。

・ターミナル部の腐食が著しいものは、バッテリコードを外し、ワイヤブラシまたはサンドペーパで磨きます。

・清掃後、バッテリコードを取付け、ターミナル部にグリースを薄く塗っておきます。

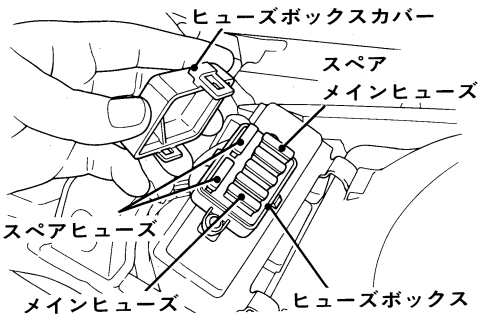
注意

・バッテリを取扱うときは火気を近づけないでください。

・ターミナルからバッテリコードを取外す場合は、メインスイッチをOFFにし、必ず⊖側バッテリコードから外してください。取付けの場合は、⊕側コードを先に取付け、次に⊖側コードを取付けてください。ターミナル部にゆるみが生じないように確実にボルト/ナットを締付けてください。

・バッテリを交換する場合は、必ずメンテナンスフリーバッテリをご使用ください。

●ヒューズの交換



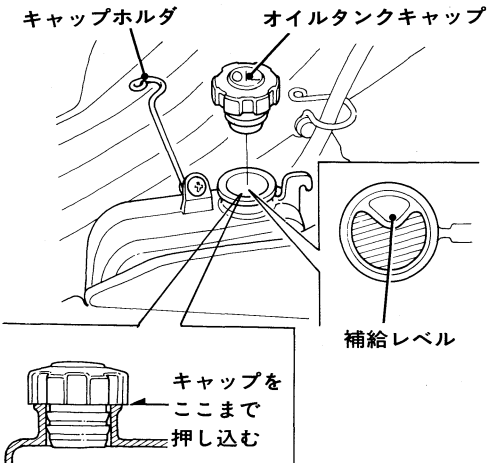
メインスイッチを切り、ヒューズが切れていないかを点検します。

・ヒューズが切れている場合は、指定されている容量のヒューズと交換します。
・ヒューズボックスは、フロントシートを外すと、バッテリ上のホルダにセットされています。
・故障状況から、交換すべきヒューズをヒューズボックスカバーの表示に従い確認します。
・ヒューズの取外しは、フックを外してカバーを取外してから、ヒューズを指でつまみ引き抜いてください。
・交換してもすぐにヒューズが切れる場合は異常です。

注意

・指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱、焼損の原因になるので絶対に使用しないでください。
・交換してもすぐにヒューズが切れる場合はヒューズの劣化以外の原因が考えられます。原因を調べて、直してから新品と交換しましょう。
・電装品類(ライト、計器など)を取付ける時は車種毎に決められている「ホンダアクセサリ」をご使用ください。それ以外のものを使用するとヒューズが切れたり、バッテリあがりをおこすことがあります。
・洗車時ヒューズホルダのまわりから水を強く吹きつけることは避けてください。

●エンジンオイルの補給



オイル警告灯が点灯したら、オイルを補給します。

1．平坦地でスタンドを立て、エンジンを停止します。
2．キャップホルダを外します。
3．オイルタンクキャップをおこすように引き抜きます。
4．オイルを補給レベルまで補給します。
5．オイルタンクキャップを取付けます。キャップは2段モーションになっています。キャップを押込むと重くなるところがありますから、キャップをその位置からもう一度、強く根元まで確実に押込みます。
6．ホルダを取付けます。

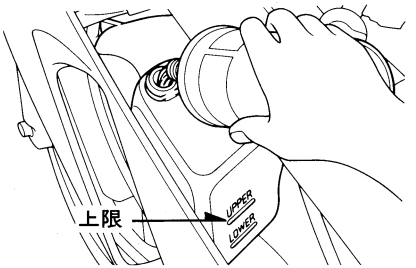
《推奨オイル》

ホンダウルトラGP　2（分離給油用＝赤色）

注意

- 推奨オイルと他社銘柄オイルとの混用はエンジン不調の原因になりますので避けてください。
- オイル補給後、ゴミ、ホコリなどの混入がないようにご注意ください。
- 補給後、しっかりキャップを取付けてください。
- オイルは補給レベル以上に入れないでください。オイルがにじみ出る恐れがあります。

●冷却水の補給



通常はラジエータキャップを外さないでください。

1．平坦地でサイドスタンドを立てます。
2．リザーバタンクのキャップを外し、タンクの上限(UPPER)まで冷却水を補給します。

リザーバタンクに冷却水がない場合は、ホンダ販売店で点検整備を行ってください。

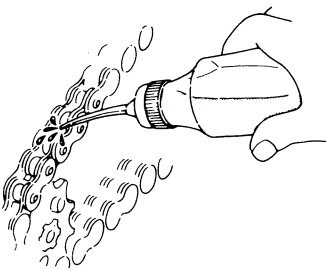
《指定液》

指 定 液	ホンダ純正ウルトララジエータ液
規定濃度	30%(寒冷地は50%)

濃度による不凍温度は
30%の場合　−16°Cまで
50%の場合　−37°Cまで

注意
- 冷却水の減り具合が著しいときはラジエータ本体や、チューブなどからの漏れが考えられます。ホンダ販売店で点検整備を受けてください。
- ラジエータ液を薄めるときは上水道(軟水)を使用してください。
- 粗悪なラジエータ液を使用するとエンジンの寿命を縮めますので注意してください。

●ドライブチェーンの給油



・車体を前後に少しづつ動かしてはスタンドを立て、チェーンやスプロケットに付着した泥、汚れをブラシなどで落とします。汚れを落した後、給油を行います。オイルがチェーン各部によく行きわたるようにチェーンローラの両側に給油してください。

《指定オイル》

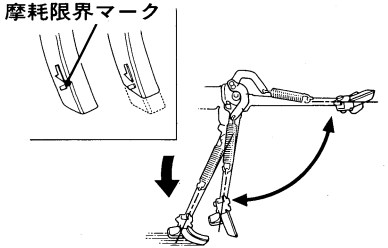
〝ホンダ純正 チェーンオイル〟またはギヤオイル(#80～#90)

注意

・チェーンにオイルをつけ過ぎると、衣服や車に飛び散り、汚しますのでオイルをつけ過ぎないよう注意してください。

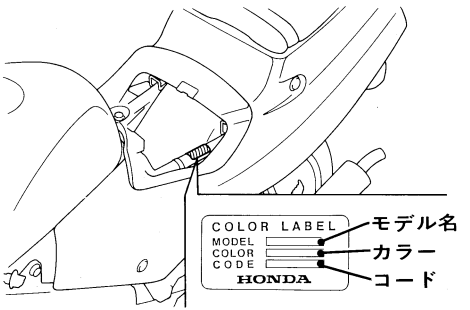
・このチェーンは、ゴムのシールを使用しているのでスチーム洗浄は行わないでください。またホンダ純正チェーンオイル以外の溶剤入り潤滑油(チェーンスプレー等)は、チェーンの寿命を縮めるものがあるので使用しないでください。

●サイドスタンドの点検



サイドスタンドラバーが摩耗限界マークまで摩耗したら、ラバーの使用限界です。
サイドスタンドの作動を点検します。車体を立てた時、スタンドが後方へ少し動き、その位置からスタンドが滑らかに格納できるか点検します。

■色物部品をご注文のとき



色物部品をご注文のときは、フロントシート下のフレーム左側に貼ってあるカラーラベルのモデル名とカラー、コードもお知らせください。

■エンジンが始動しないとき

始動しないまたは動かなくなったときは、次の点を調べてください。

・ガソリンタンクにガソリンはありますか？
・エンジンのかけかたは取扱説明書通りですか？
・エンジンキルスイッチはRUNになっていますか？OFFの状態になっていたときは次のことを行ってください。
  ・エンジンキルスイッチをOFFのままにします。
  ・チョークレバーを完全に戻します。
  ・スロットルを全開にします。
  ・キックペダルを4～5回踏んでエンジンを回します。
  ・メインスイッチをONにします。
  ・キルスイッチをRUNにし40ページまたは42ページの始動要領でエンジンをかけてください。

故障の修理

・ホンダ販売店にお申し付けください。
・むやみに修理しないで、早くホンダ販売店で点検整備をしてもらうことが、お車を長持ちさせる秘けつです。

■主要諸元

型式		MC18
長さ		1.985m
幅		0.640m
高さ		1.105m
軸距		1.355m
総排気量		0.249ℓ
車両重量		145kg 〈144kg〉
乗車定員		2人
タイヤ	前輪	110/70-17 53H
	後輪	140/60R18 64H
最低地上高		0.135m
燃料消費率		36.0km/ℓ(車速50km/h)
制動停止距離		14.0m(初速50km/h)
最小回転半径		2.9m
圧縮比		7.3
圧縮圧力		10.0kg/cm²-400rpm
最高出力		45PS/9500rpm
最大トルク		3.8kg-m/8000rpm
エンジンオイル容量(分離給油)		1.3ℓ

〈 〉……NSR250R SP

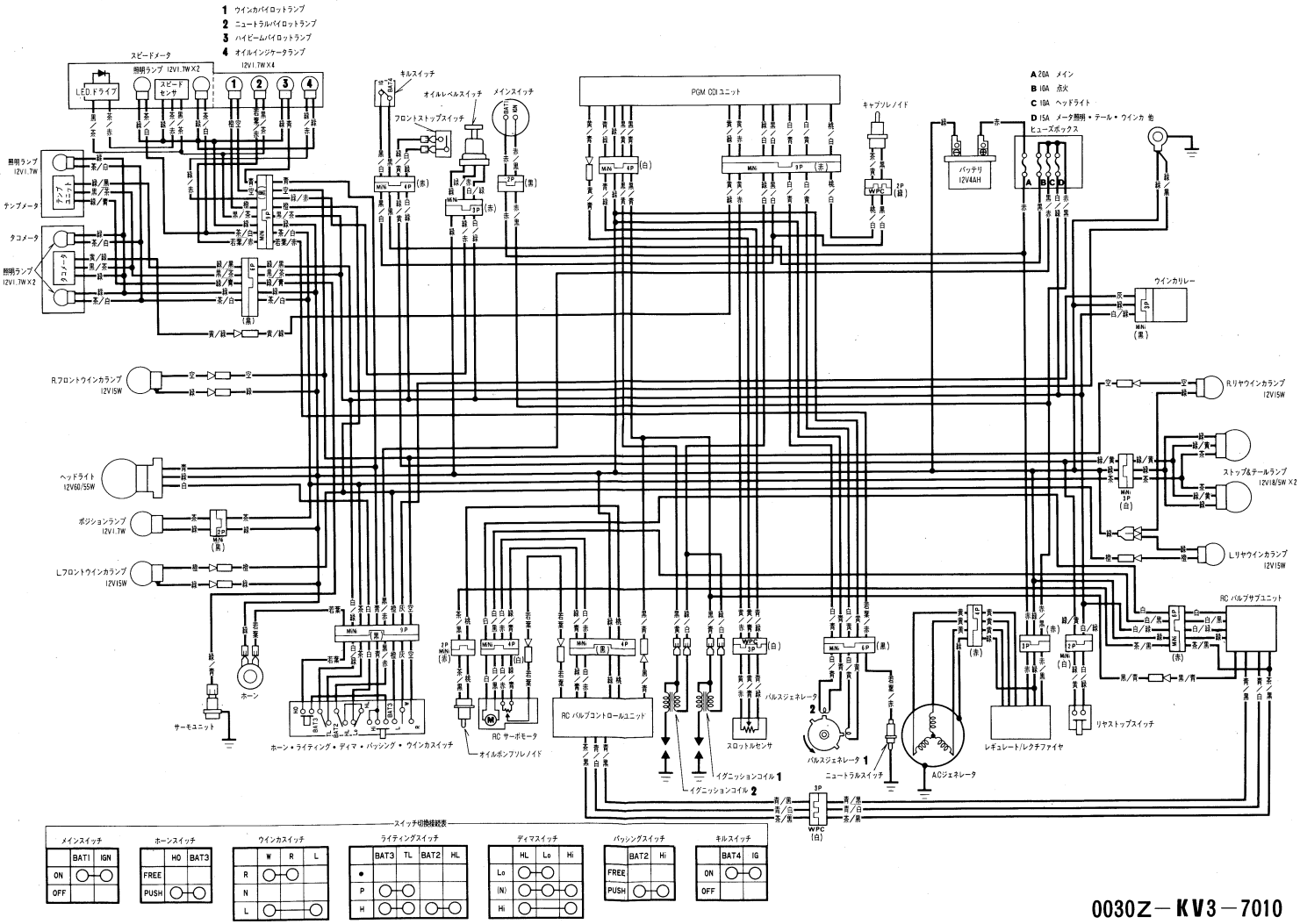
ミッションオイル容量	0.8ℓ
燃料タンク量	16ℓ
点火形式	CDI式
点火時期	BTDC15°/1200rpm
点火プラグ	(NGK) BR9ECM、BR10ECM (ND) W27EMR-C、W31EMR-C
蓄電池（バッテリ）	12V—3Ah
機関から変速機までの減速比	2.360
クラッチ形式	湿式多板コイルスプリング
変速機形式	常時噛合式
変速機操作方式	左足動式
変速比 1速	2.846
2速	1.941
3速	1.500
4速	1.272
5速	1.136
6速	1.045
第一減速比（チェーン）	2.733

■サービスデータ

ブレーキレバーの遊び		20～30mm	
ブレーキペダルの遊び		10～20mm	
タイヤ空気圧		前輪	後輪
	1人乗車	2.25kg/cm²	2.25kg/cm²
	2人乗車	2.25kg/cm²	2.50kg/cm²
エンジンオイルの量	全容量	1.3ℓ	
トランスミッションオイルの量	全容量	0.8ℓ	
	オイル交換時	0.7ℓ	
クラッチレバーの遊び		10～20mm	
ドライブチェーンのたるみ		15～25mm	
ヒューズ	メインヒューズ	20A	
	ヒューズ	10A, 15A	
点火プラグの点火すきま		0.7～0.8mm	
エアクリーナエレメント	形式	ウレタンフォーム式	

配線図

NSR250R/NSR250R SP



0030Z－KV3－7010